

あ い さ つ

富士見市教育委員会

教育長 山 口 武 士

埼玉県富士見市は、都心から約 30 km、武蔵野台地の北東縁に位置し、市域の西部には武蔵野台地、東部には荒川低地が広がっています。台地から低地に向かって流れる河川と台地際からの湧水により、複雑な地形が造り出される一方で、緑豊かな自然環境が広がっています。この恵まれた自然環境の中、武蔵野台地の縁辺部を中心に、先史時代から続く人々の暮らした痕跡がよく残されており、市内では旧石器時代から近世に至るまでの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が 59 か所確認されています。この中には、縄文時代前期の環状集落「国指定史跡 水子貝塚」や、縄文時代早期末から前期にかけての遺構・遺物が顕著な「打越遺跡」、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての大規模な集落「南通遺跡」、中世武士の館「県指定旧跡 難波田氏館跡」など著名な遺跡が存在します。

富士見市教育委員会では、これらの埋蔵文化財包蔵地の保存や、発掘調査で発見された郷土の貴重な歴史資料の活用を図るため、「国指定史跡 水子貝塚」、「県指定旧跡 難波田氏館跡」はそれぞれ「水子貝塚公園・水子貝塚資料館」、「難波田城公園・難波田城資料館」として整備を行い、歴史公園としてまた学習の場として、市民のみならず多くの方々にご活用いただいております。

その一方では、まだ市内に残されている埋蔵文化財を保護すべく、市内遺跡発掘調査事業として、埋蔵文化財包蔵地内での宅地造成・住宅建設等の開発に先立ち、事前に試掘調査・発掘調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存等の措置を行ってまいりました。市内の埋蔵文化財包蔵地は、そのほとんどが市街化区域である台地上に分布しており、開発行為の受けやすい状況下にあります。令和 5 年度の市内遺跡発掘調査事業では、試掘調査及び発掘調査等が 54 件を数え、郷土の歴史を知る上で貴重な遺構・遺物が検出され、成果をおさめることができました。

ここに本年度の事業成果の一部を報告書として刊行するにあたり、ご指導ご協力を賜りました文化庁、埼玉県教育局文化資源課並びに地元関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が埋蔵文化財に対する理解と知識を深めると共に、富士見市の歴史を学ぶ上で参考になれば幸いに存じます。

例 言

1. 本書は、令和5年度までに実施した、埼玉県富士見市内に所在する遺跡群の発掘調査報告書である。令和5年度発掘調査は富士見市教育委員会が主体となり、令和5年4月1日より令和6年3月31日まで実施した。調査にかかる経費の一部については、国庫及び県費補助金の交付を受けている。

2. 調査組織は以下のとおりである。

調 査 主 体 者 富士見市教育委員会
教 育 長 山口武士
教 育 部 長 磯谷雅之
生涯学習課長 土田宗孝
生涯学習副課長 隈本健介
文化財担当 隈本健介・大野朝日・菅沼慎太郎
調査担当者 隈本健介・大野朝日・菅沼慎太郎

3. 本書の編集は富士見市教育委員会が行い、大野が担当した。また、第5章の遺物図版及び遺物観察表については、富士見市立難波田城資料館 佐藤一也氏による資料観察と記述を、本書体裁に改変して掲載したものである。

4. 本書の遺構遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 遺構図版の縮尺は主に次のとおりである。

遺構配置図	1/300
住居跡・土坑・溝跡	1/60
炉・炉穴・集石	1/30

(2) 遺物の拓影・実測図は図中に縮尺を示した。

(3) 遺構実測図の水糸高は海拔高を示す。

(4) 柱穴内の数字は床面及び確認面からの深度を示す。

(5) 住居跡名・土坑名・炉穴名・溝跡名・集石名は、時代ごとに、遺跡内の通し番号になっている。

(6) 遺構名の略記号は以下の内容を示す。

J＝縄文時代の住居跡、J S＝縄文時代の集石、J D＝縄文時代の土坑、F P＝縄文時代の炉穴、H＝古墳時代以降の住居跡、H D＝古墳時代以降の土坑、M＝溝跡

5. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して富士見市文化財整理室に保管してある。

6. 発掘調査及び整理を通じて下記の諸機関・諸氏に御指導・御協力を賜った。(敬称略・順不同)

文化庁・埼玉県教育局生涯学習文化財課
(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
富士見市立水子貝塚資料館
富士見市立難波田城資料館
越前谷理・大久保淳・大久保聡・岡崎裕子
尾形則敏・木村 藍・齊藤麻那・佐藤一也
高崎直成・坪田幹男・徳留彰紀・中村 愛
鍋島直久・早坂廣人・堀 善之・松本伸行
柳井章宏・柳沢健司・和田晋治

7. 調査参加者

(調査員) 櫻井英史・坪田幹男

(調査協力員) 荒井里枝・岩瀬直美・大川早苗
逢坂英明・荻山浩之・小口 広・加藤 守
鈴木美恵子・関谷由枝・萩元哲雄・長谷川雅之
深谷和江・藤井喜恵子・盛政清美・山口好文
吉田信江

(整理協力員)

和泉千珠子・岩崎朝子・今野孝之・白石尚美
鈴木知恵子・萩元智子・山中陽子・結城路子

目 次

あいさつ・例言・目次・図表目次・写真図版目次

第 1 章 令和 5 年度の調査成果の概要	1
第 1 節 遺跡の立地と環境	1
第 2 節 発掘調査に至る経過	3
第 2 章 打越遺跡第 48-3 地点	5
第 1 節 遺跡の概要	5
第 2 節 縄文時代の遺構と遺物	6
第 3 章 御庵遺跡第 50 地点	11
第 1 節 遺跡の概要	11
第 2 節 縄文時代の遺構と遺物	12
第 4 章 氷川前遺跡第 78・80 地点	21
第 1 節 遺跡の概要	21
第 2 節 縄文時代の遺構と遺物	23
第 3 節 平安時代の遺構と遺物	29
第 4 節 中世以降の遺構と遺物	29
第 5 章 谷津遺跡第 51 地点	34
第 1 節 遺跡の概要	34
第 2 節 縄文時代の遺構と遺物	36
第 3 節 近代の遺構と遺物	36

写真図版
報告書抄録

図 表 目 次

第 1 図	富士見市内遺跡分布図	
第 2 図	打越遺跡第 48-3 地点	5
第 3 図	打越遺跡第 48-3 地点遺構分布図	6
第 4 図	第 239 号住居跡 1・第 423 号・第 424 号 土坑 (239 J・423・424 J D)	7
第 5 図	第 239 号住居跡焼土集中部・ 遺物出土状況 (239 J)	8
第 6 図	第 239 号住居跡出土遺物 (239 J)	9
第 7 図	打越遺跡第 48-3 地点遺構外出土遺物	10
第 8 図	御庵遺跡第 50 地点	11
第 9 図	御庵遺跡第 50 地点遺構分布図	12
第 10 図	第 23 号住居跡 1 (23 J)	14
第 11 図	第 23 号住居跡 2 (23 J)	15
第 12 図	第 23 号住居跡遺物出土状況・ 出土土製品 (23 J)	16
第 13 図	第 23 号住居跡出土遺物 1 (23 J)	17
第 14 図	第 23 号住居跡出土遺物 2 (23 J)・ 遺構外出土遺物	18
第 15 図	氷川前遺跡第 78・80 地点 1	21
第 16 図	氷川前遺跡第 78・80 地点 2	22
第 17 図	氷川前遺跡第 78・80 地点遺構分布図	23
第 18 図	第 15 号住居跡 (15 J)	24
第 19 図	第 15 号住居跡出土遺物 (15 J)・ 遺構外出土縄文時代遺物	25
第 20 図	第 75～77 号土坑、第 57・58 号炉穴、 第 58 号炉穴出土遺物 (75～77 J D、57・58 F P)	27
第 21 図	第 53 号住居跡 (53H)	30
第 22 図	第 53 号住居跡遺物出土状況・ 出土遺物 1 (53H)	31
第 23 図	第 53 号住居跡出土遺物 2 (53H)	32

第 24 図	第 47 号溝跡 (47M)	33
第 25 図	谷津遺跡第 51 地点	34
第 26 図	谷津遺跡第 51 地点遺構配置図	35
第 27 図	第 14 号集石 (14 J S)	36
第 28 図	第 32 号集石 (32HD)	36
第 29 図	第 32 号土坑出土遺物 1 (32HD)	37
第 30 図	第 32 号土坑出土遺物 2 (32HD)	38
第 31 図	第 32 号土坑出土遺物 3 (32HD)	39
第 32 図	第 32 号土坑出土遺物 4 (32HD)	40
第 33 図	第 32 号土坑出土遺物 5 (32HD)	41
第 33 図	第 32 号土坑出土遺物 6 (32HD)	42
第 1 表	令和 4 年度 3 月～令和 5 年度調査地点 (令和 6 年 2 月 29 日現在) 1	3
第 2 表	令和 4 年度 3 月～令和 5 年度調査地点 (令和 6 年 2 月 29 日現在) 2	4
第 3 表	第 239 号住居跡出土遺物観察表 (239 J)	10
第 4 表	打越遺跡第 48-3 地点 遺構外出土遺物観察表	10
第 5 表	第 23 号住居跡出土遺物観察表 1 (23 J)	17
第 6 表	第 23 号住居跡出土遺物観察表 2 (23 J)	19
第 7 表	第 23 号住居跡出土遺物観察表 3 (23 J)	20
第 8 表	御庵遺跡第 50 地点遺構外出土遺物観察表	20
第 9 表	第 15 号住居跡 (15 J)・ 氷川前遺跡第 78・80 地点 遺構外出土縄文時代遺物観察表	26
第 10 表	第 58 号炉穴出土遺物観察表 (58 F P)	28
第 11 表	第 53 号住居跡出土遺物観察表 (53H)	33
第 12 表	第 32 号土坑出土遺物観察表 1 (32HD)	43
第 13 表	第 32 号土坑出土遺物観察表 2 (32HD)	44

写真図版目次

写真図版 1 打越遺跡第48-3地点

- 〔1〕 第239号住居跡 (239 J) 完掘状況
- 〔2〕 第239号住居跡 (239 J) 遺物出土状況 1
- 〔3〕 第239号住居跡 (239 J) 遺物出土状況 2
- 〔4〕 第423号土坑 (423 J D) 完掘状況
- 〔5〕 第424号土坑 (424 J D) 完掘状況
- 〔6〕 第239号住居跡 (239 J) 出土遺物 1
- 〔7〕 第239号住居跡 (239 J) 出土遺物 2
- 〔8〕 打越遺跡第 48-3 地点遺構外出土遺物

写真図版 2 御庵遺跡第50地点 1

- 〔1〕 御庵遺跡第50地点調査状況 1
- 〔2〕 御庵遺跡第50地点調査状況 2
- 〔3〕 第23号住居跡 (23 J) 遺物出土状況 1
- 〔4〕 第23号住居跡 (23 J) 遺物出土状況 2
- 〔5〕 第23号住居跡 (23 J) 遺物出土状況 3
- 〔6〕 第23号住居跡 (23 J) 遺物出土状況 4
- 〔7〕 第23号住居跡 (23 J) 遺物出土状況 5
- 〔8〕 第23号住居跡 (23 J) 遺物出土状況 6

写真図版 3 御庵遺跡第50地点 2

- 〔1〕 第23号住居跡 (23 J) 完掘状況
- 〔2〕 第23号住居跡 (23 J) 炉体土器検出状況
- 〔3〕 第23号住居跡 (23 J) 炉跡土層断面
- 〔4〕 第23号住居跡 (23 J) 炉跡完掘状況
- 〔5〕 第23号住居跡 (23 J) 炉体土器 1・2
- 〔6〕 第23号住居跡 (23 J) 炉体土器 1
- 〔7〕 第23号住居跡 (23 J) 炉体土器 2
- 〔8〕 第23号住居跡 (23 J) 炉体土器 3

写真図版 4 御庵遺跡第50地点 3

- 〔1〕 第23号住居跡 (23 J) 出土遺物 1
- 〔2〕 第23号住居跡 (23 J) 出土遺物 2
- 〔3〕 第23号住居跡 (23 J) 出土遺物 3
- 〔4〕 第23号住居跡 (23 J) 出土遺物 4
- 〔5〕 第23号住居跡 (23 J) 出土遺物 5
- 〔6〕 第23号住居跡 (23 J) 出土遺物 6
- 〔7〕 第23号住居跡 (23 J) 出土遺物 7
- 〔8〕 御庵遺跡第50地点遺構外出土遺物

写真図版 5 氷川前遺跡第78・80地点 1

- 〔1〕 氷川前遺跡第78地点試掘調査状況
- 〔2〕 氷川前遺跡第78・80地点調査状況
- 〔3〕 第15号住居跡 (15 J) 遺物出土状況 1
- 〔4〕 第15号住居跡 (15 J) 遺物出土状況 2
- 〔5〕 第15号住居跡 (15 J) 完掘状況
- 〔6〕 第75号土坑 (75 J D) 完掘状況
- 〔7〕 第76号土坑 (76 J D) 完掘状況
- 〔8〕 第77号土坑 (77 J D) 完掘状況

写真図版 6 氷川前遺跡第78・80地点 2

- 〔1〕 第57号炉穴 (57 F P) 完掘状況
- 〔2〕 第58号炉穴 (58 F P) 完掘状況
- 〔3〕 第53号住居跡 (53 H) 遺物出土状況 1
- 〔4〕 第53号住居跡 (53 H) 遺物出土状況 2
- 〔5〕 第53号住居跡 (53 H) 遺物出土状況 3
- 〔6〕 第53号住居跡 (53 H) 遺物出土状況 4
- 〔7〕 第53号住居跡 (53 H) 遺物出土状況 5
- 〔8〕 第53号住居跡 (53 H) 完掘状況

写真図版 7 氷川前遺跡第78・80地点 3

- 〔1〕 第47号溝跡完掘状況 (47 M)
- 〔2〕 第15号住居跡 (15 J) 出土遺物 1
- 〔3〕 第15号住居跡 (15 J) 出土遺物 2
- 〔4〕 第58号炉穴 (58 F P) 出土遺物
- 〔5〕 氷川前遺跡第78・80地点遺構外出土縄文時代遺物
- 〔6〕 第53号住居跡 (53 H) 出土遺物 1
- 〔7〕 第53号住居跡 (53 H) 出土遺物 2
- 〔8〕 第53号住居跡 (53 H) 出土遺物 3

写真図版 8 氷川前遺跡第78・80地点 4・谷津遺跡第51地点

- 〔1〕 第53号住居跡 (53 H) 出土遺物 4 (表)
- 〔2〕 第53号住居跡 (53 H) 出土遺物 4 (裏)
- 〔3〕 第53号住居跡 (53 H) 出土遺物 5 (表)
- 〔4〕 第53号住居跡 (53 H) 出土遺物 5 (裏)
- 〔5〕 谷津遺跡第51地点調査前状況
- 〔6〕 第14号集石 (14 J S) 土層断面
- 〔7〕 第14号集石 (14 J S) 完掘状況
- 〔8〕 第32号土坑 (32 J D) 完掘状況



第1図 富士見市内遺跡分布図 (1/30000)

第 1 章 令和 5 年度の調査成果の概要

第 1 節 遺跡の立地と環境

埼玉県富士見市は、都心から 30 km 圏内の県域南部に位置している。昭和 40 年代前半まで武蔵野の面影の残る近郊農村であったが、その後は東武東上線沿線のベッドタウンとして大きく変貌を遂げてきた。人口は、昭和 30 年代に約 1 万人であったが、現在は約 11 万人を数える。また、平成 5 年の東武東上線ふじみ野駅開業や周辺の区画整理事業の進展に伴い、ふじみ野駅周辺を中心に開発が進み、人口が増加する要因となっている。

また、富士見市は、東に荒川を挟んで対岸にさいたま市(旧浦和市・旧大宮市・旧与野市)、南に柳瀬川を挟んで対岸に志木市、北にふじみ野市(旧上福岡市・旧大井町)、西に三芳町とそれぞれ接している。

市域の中央部には新河岸川が南北に貫流し、荒川と新河岸川により形成された標高 6 m 前後の「荒川低地」と呼ばれる沖積地が市域東半部に広がる。市域西半部は武蔵野台地の北東縁にあたり、標高 20m 前後を測る。また、台地縁辺部には、新河岸川に注ぐ小河川の浸食や湧水により、多くの支谷が形成され複雑な地形を呈している。

市内で確認されている埋蔵文化財包蔵地(遺跡)は 59 か所を数え、その多くは台地縁辺部に集中し、旧石器時代から近世にわたる遺跡が確認されている。一方荒川低地では、新河岸川沿いに形成された自然堤防上を中心に、弥生時代・古墳時代・中近世の遺跡が確認されているが、その数は少ない。

市内の遺跡を時代別に概観すると、旧石器時代の遺跡は、中沢遺跡、外記塚遺跡、宮廻遺跡、西渡戸遺跡、羽沢遺跡、上沢遺跡、山室遺跡、宿遺跡(多門氏館跡)、谷津遺跡、八ヶ上遺跡、松ノ木遺跡、打越遺跡、氷川前遺跡、栗谷ツ遺跡、北通遺跡、貝塚山遺跡、西ノ原遺跡、権平沢遺跡で礫群と遺物が出土している。

谷津遺跡では、Ⅹ層中からナイフ形石器 5 点と石刃 3 点がデボのような状況で確認され、中沢遺跡でもⅩ層中から使用痕のある礫器が出土している。

栗谷ツ遺跡では、Ⅵ層中からナイフ形石器群が出土し、中沢遺跡、外記塚遺跡、山室遺跡、八ヶ上遺跡、松ノ木遺跡、貝塚山遺跡等のⅢ層～Ⅴ層からも出土している。

また、細石刃群は打越遺跡で僅かに出土している。

縄文時代の遺跡は、宮廻遺跡、羽沢遺跡、打越遺跡、別所遺跡、南通遺跡、貝塚山遺跡で草創期の有舌尖頭器等の石器が断片的に採取され、また、八ヶ上遺跡では隆起線文土器や爪形文土器と豊富な石器が出土している。

早期では、栗谷ツ遺跡で前葉の夏島式期、稻荷台式期の堅穴住居跡が検出されている。早期末から前期にかけては縄文海進の影響により、市域東部の荒川低地部に海水が進入して古入間湾が形成され、その湾岸にあたる武蔵野台地縁辺部を中心に多くの貝塚を伴う集落が形成された。

早期後半では、打越遺跡(打越式期他堅穴住居跡 58 軒、炉穴 94 基)を中心として、宮廻遺跡(条痕文期堅穴住居跡 8 軒、炉穴 46 基)、貝塚山遺跡(条痕文期堅穴住居跡 1 軒、炉穴 153 基、堅穴状遺構 2 基)、山室遺跡(鶴ヶ島台式期堅穴住居跡 2 軒、炉穴 3 基)、谷津遺跡(条痕文期堅穴住居跡 2 軒、炉穴 15 基)、氷川前遺跡(条痕文期堅穴住居跡 1 軒、打越式期堅穴住居跡 1 軒、炉穴 55 基)、北通遺跡(条痕文期堅穴住居跡 2 軒、炉穴 20 基)、南通遺跡(条痕文期堅穴住居跡 1 軒、炉穴 10 基)の各遺跡でも堅穴住居跡が検出されており、下沼部式(氷川前遺跡)～打越式古段階併行(宮廻遺跡)～打越式中段階(打越遺跡)～打越式新段階(氷川前遺跡)～神之木台式・下吉井式(打越遺跡)のように連続する土器形式が把握され、それに伴う集落が営まれている。

その他にも、西渡戸遺跡、渡戸遺跡、羽沢遺跡、平塚遺跡、折戸遺跡、殿山遺跡、宿遺跡、御庵遺跡、八ヶ上遺跡、節沢遺跡、東前遺跡、観音前遺跡、東台遺跡、栗谷ツ遺跡、別所遺跡の各遺跡で炉穴や縄文時代早期の遺物が検出されている。

前期になると、集落の規模も大きくなり、貝塚を伴う集落が形成されるようになる。関山式期には打越遺跡を中心とし、中沢遺跡、殿山遺跡、御庵遺跡、節沢遺跡、松山遺跡、氷川前遺跡、正網遺跡、北通遺跡、南通遺跡の各遺跡、黒浜式期には国指定史跡でもある水子貝塚を中心とし、宮廻遺跡、宮脇遺跡、黒貝戸遺跡、殿山遺跡、八ヶ上遺跡、栗谷ツ遺跡、別所遺跡の各遺跡で、堅穴住居跡等の遺構及び遺物が検出されている。

次の諸磯式期には、宮廻遺跡、水子貝塚、山崎遺跡等で堅穴住居跡が検出されているものの、貝塚は伴わないものとなっている。

中期前半の遺跡は僅少であるが、勝坂式期後葉から加曾利E式期、後期初頭の称名寺式期にかけては、中沢遺跡、外記塚遺跡、稲荷前遺跡、貝塚山遺跡、羽沢遺跡、宮脇遺跡、谷津遺跡、御庵遺跡、新田遺跡、ハケ上遺跡、節沢遺跡、関沢遺跡、松ノ木遺跡、氷川前遺跡、栗谷ツ遺跡、北通遺跡の各遺跡で堅穴住居跡・土坑等の遺構が検出されており、特に中沢遺跡・羽沢遺跡・松ノ木遺跡は環状集落の様相を呈している。

後期では初頭以降に本目遺跡・打越遺跡・正網遺跡で僅かに遺構と遺物が検出されるに過ぎず、晩期になると遺構の分布が正網遺跡で確認されるほか、打越遺跡で遺物の散布が確認されるのみである。

弥生時代から古墳時代初頭にかけては、市城南半部から柳瀬川流域に集落が集中し、南通遺跡で中期の宮ノ台式期堅穴住居跡が検出されている。

弥生時代後期から古墳時代初頭にかけては、柳瀬川流域の観音前遺跡、東台遺跡、栗谷ツ遺跡、別所遺跡、北通遺跡、南通遺跡の各遺跡、市城南半部の本目遺跡、打越遺跡、松山遺跡、氷川前遺跡の各遺跡、市域中央の大谷遺跡で堅穴住居跡が検出されている。

また、新河岸川流域の自然堤防上に位置する上内手遺跡、山形遺跡、難波田氏館跡等でも堅穴住居跡が確認され、低地についても集落が形成されたことが明らかとなっている。

南通遺跡では、環濠と堅穴住居跡 300 軒以上が検出され、観音前遺跡、北通遺跡で環濠、氷川前遺跡、東台遺跡、北通遺跡、山形遺跡で方形周溝墓が検出されている。また、北通遺跡で検出された方形周溝墓の主体部からは、鉄剣やガラス玉が出土している。

古墳時代では、後期に宮脇遺跡、黒貝戸遺跡、打越遺跡、氷川前遺跡、観音前遺跡、別所遺跡で堅穴住居跡が検出されている。古墳はかつて貝塚山遺跡に存在していたが、現在は削平されている。また、氷川前遺跡、観音前遺跡では円墳の周溝と思われる溝跡がそれぞれ検出されている。

奈良時代では、中沢遺跡、黒貝戸遺跡、殿山遺跡、谷津遺跡、栗谷ツ遺跡、北通遺跡、南通遺跡、上内手遺跡、

権平沢遺跡等で堅穴住居跡が検出されている。

平安時代では、市域のほぼ全域において遺構と遺物が確認されている。中沢遺跡、宮廻遺跡、宮脇遺跡、黒貝戸遺跡、殿山遺跡、谷津遺跡、御庵遺跡、打越遺跡、松山遺跡、氷川前遺跡、東前遺跡、観音前遺跡、東台遺跡、正網遺跡、栗谷ツ遺跡、別所遺跡、北通遺跡、南通遺跡等で堅穴住居跡が検出されている。

また、氷川前遺跡、正網遺跡で掘立柱建物跡群、栗谷ツ遺跡で須恵器窯跡 1 基、本目遺跡で土器焼成土坑、宮脇遺跡、氷川前遺跡、東台遺跡で工房跡が検出されている。特に、宮脇遺跡の鑄造工房跡からは、多量の鉄滓や銅滓とともに、銅製仏具の鑄造に使用された鋳型が出土している。

他に、観音前遺跡、東台遺跡で瓦塔片が出土している。

中世では、城館跡の難波田氏館跡（県指定旧跡）、殿山遺跡、宿遺跡（多門氏館跡）の他、鍛冶海戸遺跡、宮廻遺跡、殿山遺跡、打越遺跡、氷川前遺跡、東台遺跡、正網遺跡、別所遺跡、北通遺跡、山形遺跡の各遺跡で遺構と遺物が検出されている。

難波田氏館跡で、郭跡、堀跡、建物跡、橋脚跡が、殿山遺跡で堀跡、地下式坑、段切り遺構がそれぞれ検出されている。

また、宿遺跡（多門氏館跡）で、堀跡、土塁跡、建物跡、地下式坑、井戸跡、溝跡、墓坑、粘土貼土坑等が検出され、殿山遺跡、鍛冶海戸遺跡では堀跡が検出されている。

その他にも、打越遺跡で建物跡、地下式坑、溝跡等、東前遺跡で井戸跡、観音前遺跡で火葬墓が検出され、北通遺跡で火葬墓、段切り遺構、多数の板碑を伴う墓坑、別所遺跡で地下式坑、井戸跡がそれぞれ検出されている。

観音前遺跡、東台遺跡、正網遺跡、別所遺跡、北通遺跡については、柳瀬川流域の崖線上に連なるようにして位置しており、同じく崖線付近を通じていたとされる鎌倉道（羽根倉道）との関連が想定される。

近世では、富士塚と推定されるオトウカ山遺跡などがある。

第2節 発掘調査に至る経過

市内の遺跡は、多くが市域西半部の武蔵野台地縁辺部に集中し、急激な市街化に伴う開発が盛んに行われてきたところである。

開発は主に宅地造成・住宅建設等の面積 1,000 ㎡以下の小規模な開発が大半を占めるが、埋蔵文化財に対しては多大な影響を与えてきた。

このような小規模な開発による埋蔵文化財の蚕食的消滅を防ぐためには、小規模な開発に対してもきめ細やかな対応を行い、最低限の記録保存の措置を講じる必要がある。

そのため、富士見市教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に先立ち、埋蔵文化財の試掘調査・発掘調査を行う体制を整えるとともに、試掘調査・発掘調査を実施、記録保存等の措置を講じてきた。

財政的には、昭和 52 年度から国庫・県費補助金の交付を受け、昭和 61 年度から発掘調査費用の一部を市負担として実施してきた。

市内の水子地域・諏訪地域では平成 22 年 11 月に市街化区域に編入された事により開発行為が増加し、近年は水子地区に所在する東前遺跡、観音前遺跡、氷川前遺跡、神明遺跡、東台遺跡、栗谷ツ遺跡、別所遺跡の各遺跡で、試掘調査・発掘調査の件数が増加している。

No.	遺跡・地点	所在地	面積 (㎡)	調査原因	調査期間 上段：試掘調査 下段：発掘調査	特記事項	北緯 東経
R4 年度	34 水川前遺跡 第99-1地点	大字水子1345の一部、1348の一部、 1349の一部、1354の一部、1363の一部、 2150-1の一部、2151-7	2332.9	道路	令和5年1月23日～30日、3月6日～7日 令和5年10月10日～令和6年1月31日 (発掘調査は令和6年度以降も継続予定)	縄文時代の竪穴住居跡2軒以上 弥生時代の竪穴住居跡19軒以上 他 【発掘調査】	35° 50'45" 139° 33'33"
	35 水川前遺跡 第99-2地点	大字水子1397-4	162.78	道路	令和5年3月6日～7日 -	段切り状遺構1箇所 【発掘調査】	35° 50'50" 139° 33'33"
	36 水川前遺跡 第99-3地点	大字水子1400-1、1400-2	63.62	道路	令和5年3月6日～7日 令和5年3月8日	近世遺構の清跡1条 【発掘調査】	35° 50'49" 139° 33'32"
	37 栗谷ツ遺跡 第64地点	大字水子北別所土地区画整理事業 2街区1画地、3街区1画地、4画地、 6画地、11画地の各一部	4.3	電気等	令和5年3月13日 -	遺構なし 【工事立会】	35° 50'11" 139° 33'21"
R5 年度	38 打越遺跡 第48-2地点	東みずほ台四丁目30-64	120.09	その他の建物 (分譲住宅)	- -	縄文時代の竪穴住居跡1軒 縄文時代の土坑1基 【現状保存】 (現状保存確約：令和5年3月22日)	35° 50'42" 139° 32'59"
	39 水川前遺跡 第100地点	大字水子字東北側1517-4、1518-4	35.26	道路	令和5年3月31日 -	遺構なし 【工事立会】	35° 50'49" 139° 33'41"
	1 渡戸遺跡 第18地点	渡戸三丁目377-37の一部	472.99	宅地造成	令和5年4月10日～14日 令和5年4月17日	炉穴1基 【発掘調査】	35° 51'28" 139° 32'00"
	2 御庵遺跡 第50地点	鶴馬二丁目3064-1	2149.96	宅地造成	令和5年4月17日～19日 令和5年5月12日～24日	縄文時代の竪穴住居跡1軒 【発掘調査】	35° 50'40" 139° 32'43"
	3 羽沢遺跡 第89地点	羽沢一丁目710-1の一部	527	その他の開発 (駐車場設置)	令和5年4月24日～25日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'27" 139° 32'26"
	4 宮脇遺跡 第68地点	羽沢三丁目588-41	59.86	個人住宅	令和5年4月27日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'10" 139° 32'30"
	5 栗谷ツ遺跡 第65地点	大字水子字北別所4974-3	135.08	個人住宅	令和5年5月9日 令和5年5月17日～5月24日	縄文時代の竪穴状遺構1基 縄文時代の土坑9基 【発掘調査】	35° 50'11" 139° 33'25"
	6 谷津遺跡 第55地点	鶴瀬東一丁目2375-1の一部	128	集合住宅	令和5年5月16日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 50'53" 139° 32'27"
	7 東台遺跡 第62-3地点	大字水子字東台4567-8	165.15	その他の建物 (分譲住宅)	- -	中近世の清跡1条 【現状保存】 (現状保存確約：令和5年5月19日)	35° 50'18" 139° 33'35"
	8 羽沢前遺跡 第8地点	羽沢一丁目647-2、648-4	499.63	その他の建物 (分譲住宅)	令和5年5月25日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'21" 139° 32'27"
	9 宮脇遺跡 第67地点	羽沢三丁目1562-2の一部	499.17	集合住宅	令和5年3月16日～20日 令和5年5月29日～6月13日	平安時代の竪穴住居跡4軒 古代以降の清跡3条 他 【発掘調査】	35° 51'16" 139° 32'43"
	10 栗谷ツ遺跡 第62-2地点	大字水子字北別所4968-2の一部	107	個人住宅	- 令和5年6月14日～19日	竪穴状遺構1基 【発掘調査】	35° 50'11" 139° 33'22"
	11 御庵遺跡 第49地点	鶴馬二丁目3064-1の一部	6	電気等	令和5年6月15日 -	遺構なし 【工事立会】	35° 50'39" 139° 32'43"
	12 羽沢前遺跡 第9地点	羽沢一丁目644-15	72.15	その他の建物 (分譲住宅)	令和5年6月23日 -	縄文時代の竪穴住居跡1軒 【発掘調査】	35° 51'19" 139° 32'26"
	13 水川前遺跡 第102地点	大字水子2083の一部、2084の一部、 2085-1	1602.39	その他の建物 (分譲住宅)、 宅地造成	令和5年6月26日～28日 -	遺構なし 【工事立会】	35° 50'40" 139° 33'41"
	14 東渡戸遺跡 第34地点	渡戸一丁目825-1の一部	210.3	個人住宅	令和5年6月28日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'35" 139° 32'17"
	15 打越遺跡 第48-3地点	東みずほ台四丁目30-62、30-63	135	個人住宅	- 令和5年6月30日～7月6日	縄文時代の竪穴住居跡1軒 【発掘調査】	35° 50'42" 139° 32'59"

第1表 令和4年度3月～令和5年度調査地点（令和6年2月29日現在） 1

No.	遺跡・地点	所在地	面積 (㎡)	調査原因	調査期間 上段:試掘調査 下段:発掘調査	特記事項	北緯 東経
16	稲荷久保北遺跡 第18地点	ふじみ野東三丁目17-5、17-6	435.04	その他の建物 (分譲住宅)	令和5年7月10日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'56" 139° 31'32"
17	正網南遺跡 第13地点	大字水子字正網5039-2、5042-1、 5042-3、5044-2の一部	1563.88	宅地造成	令和5年7月25日～27日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 50'07" 139° 33'35"
18	羽沢遺跡 第90地点	羽沢一丁目710-1	995	その他の建物 (分譲住宅)	令和5年8月7日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'26" 139° 32'27"
19	羽沢遺跡 第91地点	羽沢一丁目760-3、760-4の一部、 761-1、762-3	411.37	個人住宅	令和5年8月8日～9日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'37" 139° 32'29"
20	正網遺跡 第13-2地点	大字水子字正網5129-4	125.46	個人住宅	- 令和5年8月17日～21日	段切り状遺構 1箇所、 中世以降の土坑3基 【発掘調査】	35° 50'18" 139° 33'39"
21	上沢遺跡 第30地点	上沢三丁目220-4、220-5	544.13	宅地造成	令和5年8月28日～29日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'09" 139° 31'46"
22	別所遺跡 第30地点	大字水子字北別所6324の一部、 6326-7の一部、6326-8の一部	317.36	集合住宅	令和5年9月11日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 50'04" 139° 33'30"
23	宮脇遺跡 第69地点	羽沢三丁目588-56	56.77	その他の建物 (分譲住宅)	令和5年9月21日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'08" 139° 32'34"
24	東台遺跡 第62-4地点	大字水子字東台4567-7	159	個人住宅	- -	平安時代の堅穴住居跡1軒 中近世の溝跡1条 【現状保存】 (現状保存確約:令和5年9月25日)	35° 50'18" 139° 33'38"
25	黒貝戸遺跡 第46地点	諏訪二丁目1610-10	201.33	個人住宅	令和5年9月28日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'08" 139° 32'55"
26	東台遺跡 第63地点	大字水子4561-1の一部	0.36	電気等	令和5年10月18日 -	遺構なし 【工事立会】	35° 50'17" 139° 33'39"
27	ハケ上遺跡 第26地点	関沢二丁目2803-3	280.91	その他の建物 (分譲住宅)	令和5年10月19日～20日 令和5年12月4日～1月15日	縄文時代の堅穴住居跡8軒 縄文時代の土坑4基 他 【発掘調査】	35° 50'28" 139° 32'40"
28	別所遺跡 第29地点	大字水子6336-16の一部	0.37	電気等	令和5年10月20日 -	遺構なし 【工事立会】	35° 50'07" 139° 33'24"
29	南通遺跡 第31地点	針ヶ谷二丁目33-2、33-3	977.40	その他の建物 (分譲住宅)、 宅地造成	令和5年8月2日～3日、10月23日～25日 令和6年1月18日～2月21日	弥生時代の堅穴住居跡11軒 【現状保存、一部発掘調査】	35° 49'44" 139° 33'09"
30	栗谷ツ遺跡 第68地点	大字水子字北別所4897-19、4897- 29、4898-1、4898-2、4901-1	1306.63	その他の建物 (分譲住宅)、 宅地造成	令和5年10月30日～31日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 50'11" 139° 33'16"
31	神明遺跡 第39地点	大字水子字石井4445-1	1395.96	その他の建物 (分譲住宅)	令和5年11月6日～9日 令和5年11月10日	古代の溝跡1条 【発掘調査】	35° 50'24" 139° 33'47"
32	谷津遺跡 第56地点	鶴馬一丁目19-4、19-6、19-7	1056	宅地造成	令和5年11月13日～15日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'05" 139° 32'34"
33	谷津遺跡 第57地点	鶴馬一丁目21-2	609.3	宅地造成	令和5年11月13日～15日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'04" 139° 32'32"
34	宿(多門氏館跡) 遺跡 第13地点	諏訪二丁目2037-3、2038-1、2038-2	1680.18	その他の建物 (分譲住宅)、 宅地造成	令和5年11月20日～27日 令和5年11月28日	中近世の溝跡1条 【発掘調査】	35° 51'09" 139° 33'05"
35	鍛冶海戸遺跡 第22地点	大字勝瀬字鍛冶海戸896-1の一部	87.03	個人住宅	令和5年11月24日 令和5年11月27日	中世の溝跡1条 【発掘調査】	35° 51'59" 139° 32'05"
36	栗谷ツ遺跡 第67地点	大字水子字栗谷ツ6351-6	333	集合住宅	令和5年11月27日～28日 -	平安時代の堅穴住居跡1軒 【現状保存】 (現状保存確約:令和6年2月1日)	35° 50'09" 139° 33'23"
37	谷津遺跡 第58地点	鶴馬一丁目2233-2	885.17	その他の建物 (分譲住宅)、 宅地造成	令和5年11月29日～12月1日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 50'60" 139° 32'32"
38	観音前遺跡 第67地点	大字水子字城之下3056-4の一部、 3056-11の一部、3056-13の一部	152.73	個人住宅	令和5年12月14日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 50'40" 139° 34'14"
39	永川前遺跡 第99-4地点	大字水子2143-3、2144-6、2144-7	1460.54	道路	令和5年1月22日～25日 -	弥生時代の堅穴住居跡7軒 古代の堅穴住居跡1軒 他 【発掘調査】	35° 50'43" 139° 33'32"
40	山室遺跡 第31地点	山室二丁目9-32	267.27	その他の建物 (分譲住宅)	令和6年2月5日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 51'30" 139° 32'40"
41	打越遺跡 第50地点	大字水子字山崎161-2、162-3	311.46	個人住宅	令和6年2月19日 -	遺構なし 【慎重工事】	35° 50'47" 139° 33'10"
42	東通遺跡 第27地点	大字水子1822-17	130	個人住宅	令和6年2月27日 令和6年2月28日	中世以降の溝跡1条 【発掘調査】	35° 50'43" 139° 33'56"

第2表 令和4年度3月～令和5年度調査地点(令和6年2月29日現在) 2

第2章 打越遺跡第48-3地点

第1節 遺跡の概要

1. 遺跡の立地と調査地点の概要

打越遺跡は、武蔵野台地水子支台に位置する。遺跡の北西側に流れる富士見江川と、遺跡南東側の桜井谷と呼ばれる支谷に区画された舌状台地の、基部から中央部を範囲とする遺跡である。隣接する遺跡として、同じ舌状台地の先端部に位置し、諸磯式期の住居跡などが検出されている山崎遺跡がある。南東側の支谷を挟んだ対岸の台地上には、松山遺跡や氷川前遺跡、史跡水子貝塚が位置している。

打越遺跡は、昭和14年の酒詰仲男と和島誠一による発見と調査に始まり、令和5年度時点で50箇所以上の調査が行われている。遺跡中央部から東側では、みずほ台小学校の建設や土地区画整理事業に伴う広範囲な調査が行われ、縄文時代早期前半から前期前半の大規模集落を中心とした複合遺跡としての広がりが見られている。

今回報告する第48-3地点を含む打越遺跡第48地点は、遺跡の西部、富士見江川の段丘の際に位置している。隣接する第32地点で貝層を伴う関山式期の竪穴住居跡

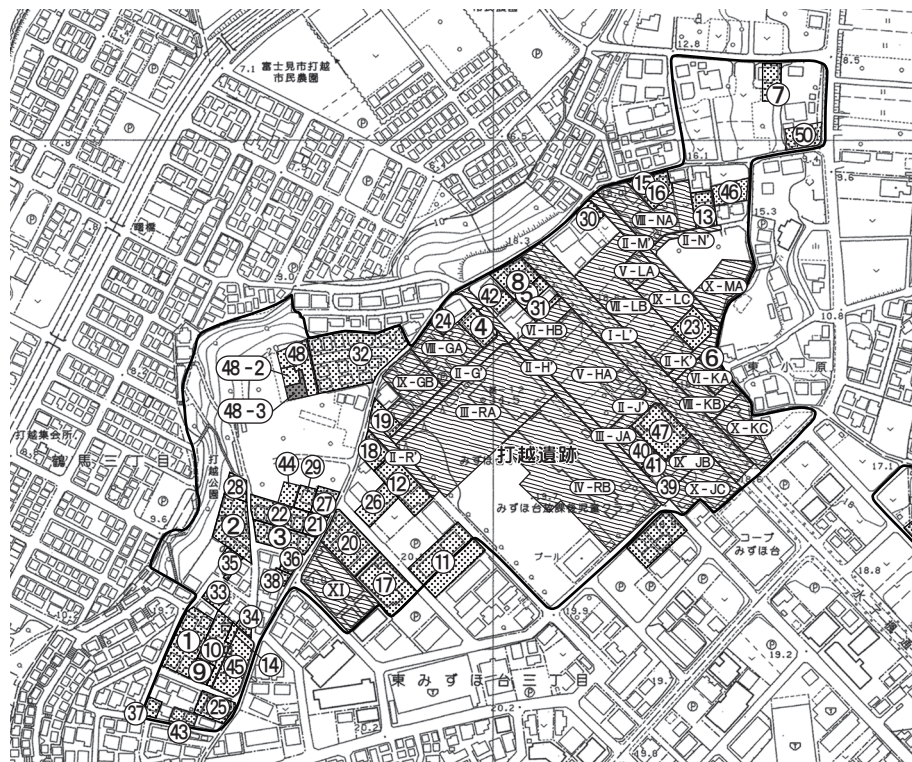
1軒が検出されるなど、付近では関山式期の集落跡が確認されていることから、本地点においても縄文時代前期遺構の検出が予想された。

2. 発掘調査の経過

打越遺跡第48地点では、宅地造成に伴い、令和4年11月30日から12月27日に、富士見市遺跡調査会による調査が実施されており、その際は関山Ⅰ式期の竪穴住居跡3軒（うち2軒で貝層を伴う）、集石1基、炉穴1基の調査が行われている。また、工事による影響を受けないと判断された遺構に対しては、事業者と調整のうえ、現状保存の措置がとられた。

その後、打越遺跡第48地点の現状保存範囲の一部について、個人住宅建設の届出が提出され、これを打越遺跡第48-3地点として、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。調査期間は令和5年6月30日から7月6日、面積は135㎡である。

調査で検出した遺構は、縄文時代の住居跡1軒(239 J)、縄文時代の土坑2基(423 J D・424 J D)である。



第2図 打越遺跡第48-3地点 (1/5000)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

第239号住居跡（239J）（第4・5図）

〔位置・概要〕調査区北西端に位置し、北側～西側は調査区外へ延びている。全体としては隅丸長方形の遺構外形が想定されるが、調査区内で検出されたのは住居全体の1/4～1/3程度であり、全体の様子はやや不明瞭。南側では424JDと重複しており、おそらくは切っている。いわゆる三角堆積にあたる土層が明瞭に確認できることが特徴的で、住居廃絶後、自然状態で埋没した期間があったことが伺われる。

〔構造〕（平面形）隅丸長方形（主軸方位）不明瞭であるが、現状保存部分の遺構検出状況から、西側に出入口部をもつ東西方向の主軸が推測される。（規模）長軸2.6m以上×短軸2.4m以上（壁高）24～27cmを測る（床）住居外周部は、中央部床面から測って10cmほど高く、そこから住居中央に向かって緩やかにくぼんでいる。全体にしまりはよいが、明瞭な硬化は確認できない。

（柱穴）床面上で10～91cmを測るピット状の掘り込みが検出されている。なかでもP1～P5は掘り込みが明瞭で、住居の主軸方位に並行した配列が認められる。（炉）床面直上での焼土集中部が2カ所で確認されたが、いずれも炉跡が想定される位置からは離れており、炉跡とは認められないと判断した。

〔覆土〕黒褐色～暗褐色土を基調とし、11層に分層される。覆土の主体である黒褐色土層（1～3層）、遺構壁際でいわゆる三角堆積として確認される暗褐色～暗黄褐色土層（4～9層）、住居床面直上に薄く堆積する暗褐色土層（10・11層）に大別される。

〔遺物出土状況〕主に覆土中から、

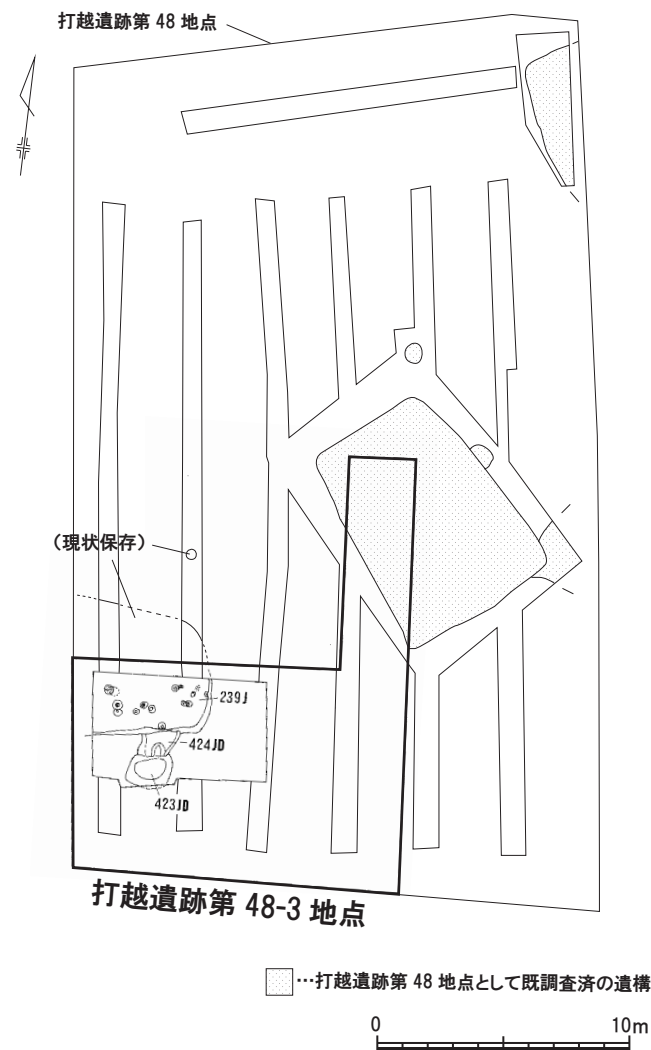
関山式の土器片・石器が少量出土している。

〔時期〕縄文時代前期前半

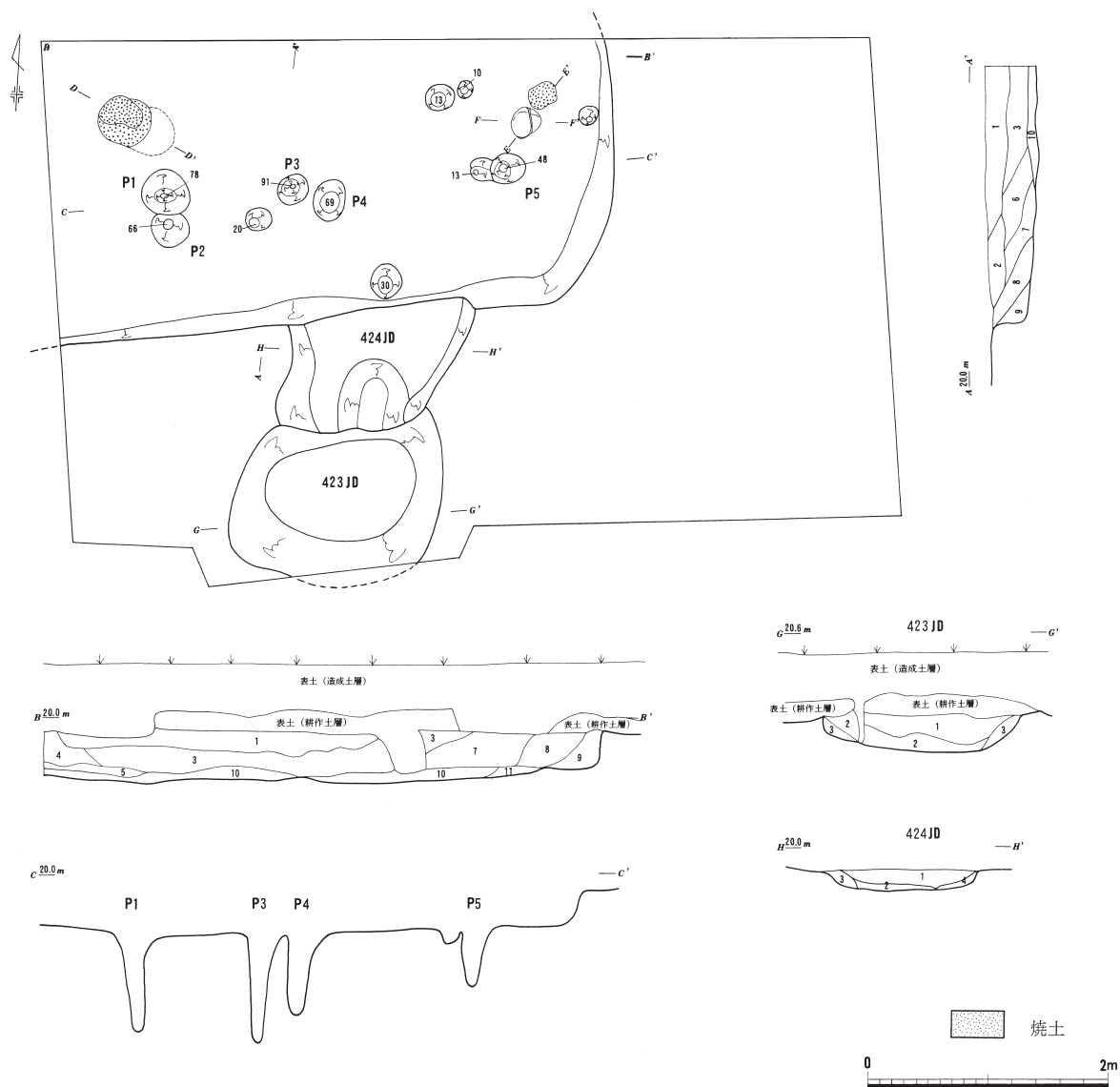
第239号住居跡出土遺物（239J）（第6図、第3表）

12点を図示した。8は床面よりもわずかに高い位置で、焼土集中部と近接して出土した石皿。被熱による割れや、黒色タール状の付着物が観察される。

10～12は棒状礫。いずれも長軸が10cm前後を測り、角柱状の外形を呈する。加工および使用の痕跡は観察されないが、住居覆土中に含まれていた自然礫の量があまり多くなかったことから考えても、何らかの意図を持って人為的に集落内に持ち込まれた礫であろう。



第3図 打越遺跡第48-3地点遺構分布図（1/300）



第 239 号住居跡 (239 J : A-A', B-B')

- | | |
|--------|---|
| 1 黒褐色土 | 黒みの強い色調。
ローム粒、焼土粒を含む。炭化粒をわずかに含む。しまりややあり。粘性やや弱。 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒、焼土粒、炭化粒をわずかに含む。しまりややあり。粘性やや弱。 |
| 3 黒褐色土 | ローム粒、焼土粒を多く含む。炭化粒を含む。しまりあり。粘性やや弱。 |
| 4 黒褐色土 | 黒みの強い色調。
焼土粒をやや多く含む。ローム粒を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。 |
| 5 黒褐色土 | 黒みの強い色調。焼土粒、焼土ブロックを多く含む。ローム粒、ロームブロックを含む。しまりややあり。粘性ややあり。 |

- | | |
|---------|--|
| 6 暗褐色土 | ローム粒、ロームブロックを多く含む。
焼土粒を含む。しまり強。粘性やや強。 |
| 7 暗褐色土 | ロームブロック、焼土粒、炭化粒を含む。しまりやや強。粘性ややあり。 |
| 8 暗黄褐色土 | 暗褐色土ブロック、焼土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性強。 |
| 9 黄褐色土 | 暗褐色土ブロック、焼土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性強。 |
| 10 暗褐色土 | 焼土粒、炭化粒を多く含む。しまりやや強。粘性ややあり。 |
| 11 暗褐色土 | ロームブロック、焼土粒、焼土ブロックを多く含む。しまり強。粘性強。 |

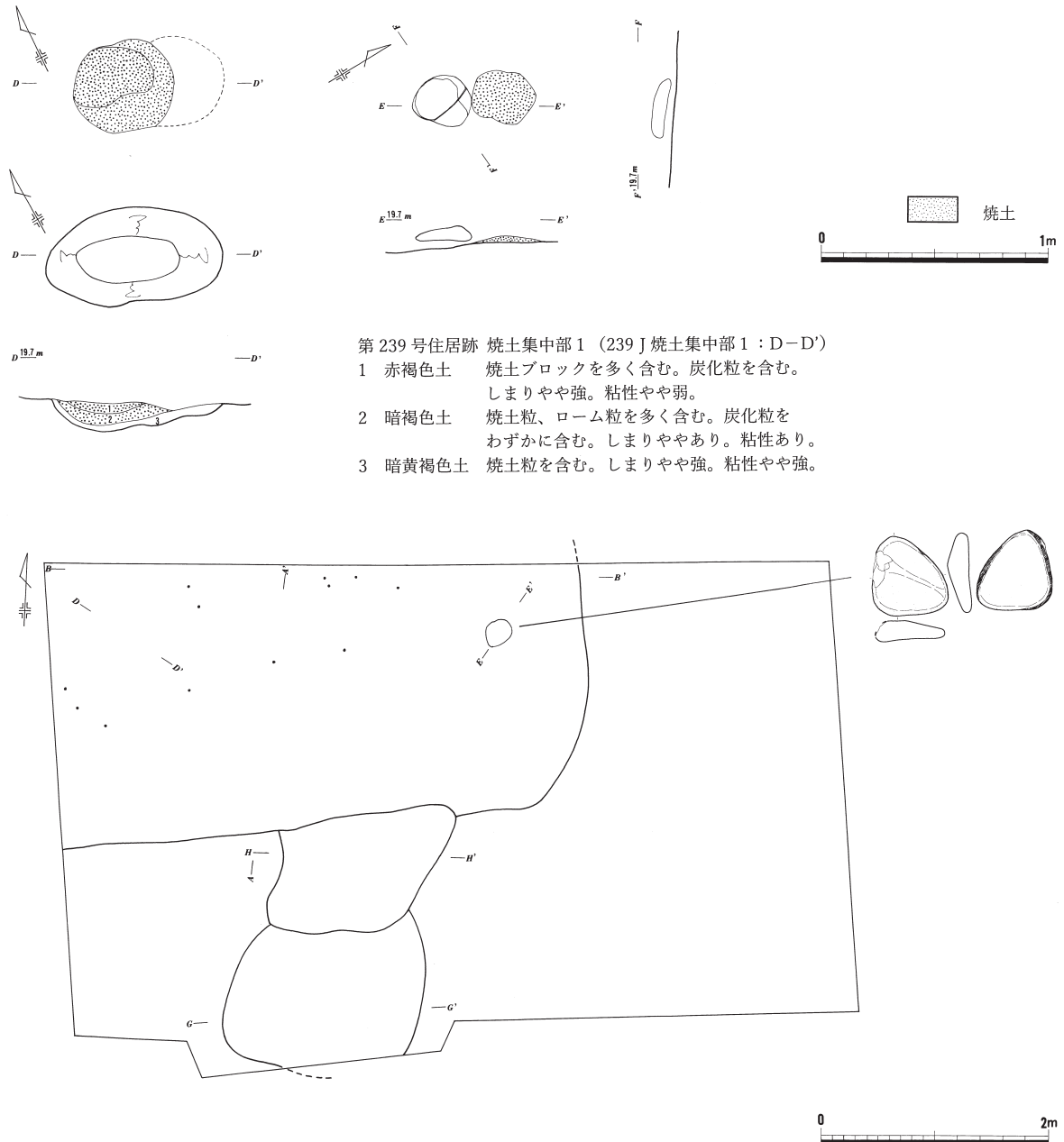
第 423 号土坑 (423 J D : G-G')

- | | |
|---------|--|
| 1 暗褐色土 | ロームブロックを滲むように多く含み斑状を呈する。
焼土粒、中粒砂を含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 2 暗黄褐色土 | ロームブロック、ローム粒を多く含む。
焼土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性やや強。 |
| 3 暗黄褐色土 | ロームブロック、ローム粒を多く含む。
焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性強。 |

第 424 号土坑 (424 J D : H-H')

- | | |
|---------|---|
| 1 暗褐色土 | ローム粒やや多く含む。焼土粒を含む。しまりあり。粘性ややあり。 |
| 2 暗黄褐色土 | ロームブロック、ローム粒を多く含む。焼土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性やや強。 |
| 3 黒褐色土 | ロームブロックを含む。焼土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。 |
| 4 暗褐色土 | ロームブロックを多く含む。焼土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。 |

第 4 図 第 239 号住居跡 1 ・ 第 423 号 ・ 第 424 号土坑 (239 J ・ 423 ・ 424 J D : 1/60)



第5図 第239号住居跡焼土集中部・遺物出土状況 (239 J : 1/30・1/60)

2. 土坑

第423号土坑 (423 J D) (第4図)

〔位置〕 調査区中央東寄りに位置する。424 J Dと重複する。

〔構造〕 (平面形) 不整円形。 (断面形) 碗状。

〔規模〕 長径約194cm×短径約160cm×深さ約31cm。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

〔遺物出土状況〕 土器片・石器剥片が少量出土したが、図示には至らなかった。

〔時期〕 縄文時代

第424号土坑 (424 J D) (第4図)

〔位置〕 調査区中央東寄りに位置する。239 J、423 Jと重複する。

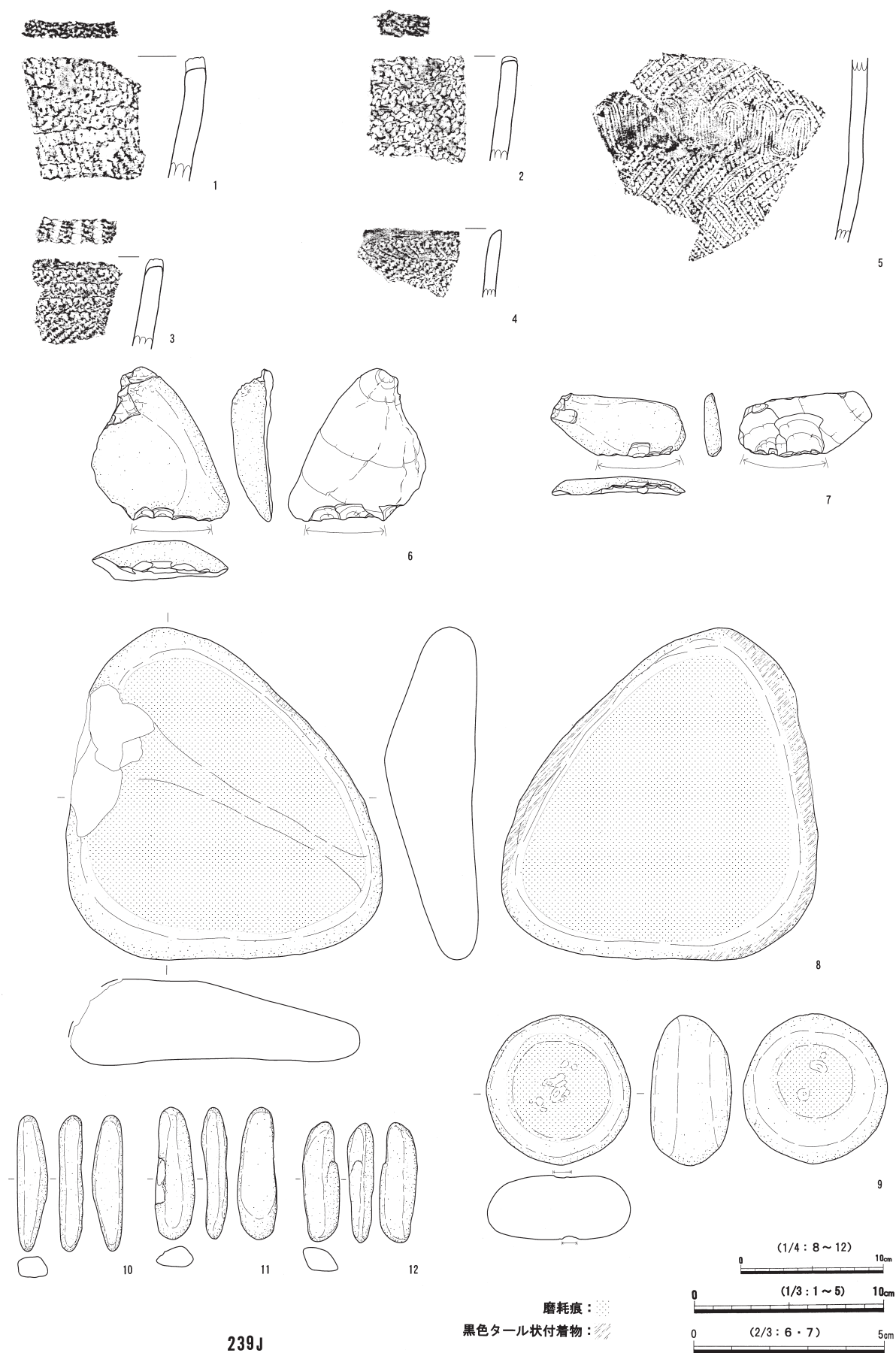
〔構造〕 (平面形) 不整形。 (断面形) 皿状。

〔規模〕 長軸150cm以上×短軸100cm以上×深さ約26cm。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、4層に分層される。

〔遺物出土状況〕 繊維を含まない無文の土器胴部片が出土したが、図示には至らなかった。

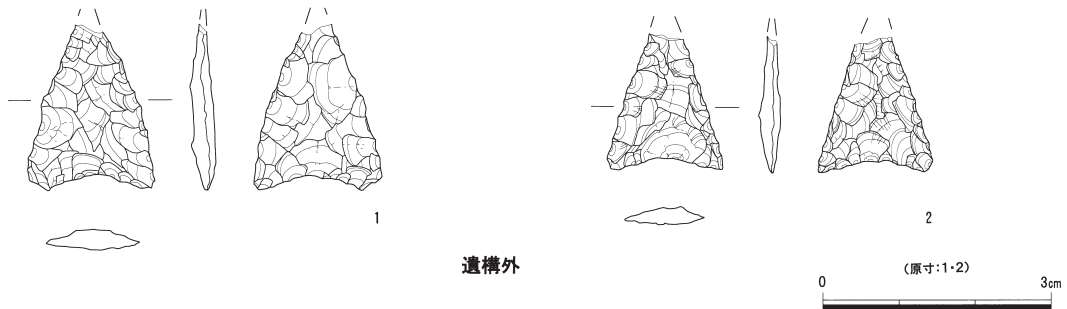
〔時期〕 縄文時代



第6図 第239号住居跡出土遺物 (239J : 1/3・2/3・1/4)

土 器								
No.	出土 遺構	器種	法量 (単位はcm、*は現存、#は復元)			口縁遺存 (完形を 1とする)	色調	備考等
			口径	底径	器高			
第6図1	239J	深鉢	-	-	*6.6	わずか	明褐色	多段のループ文 臼歯状突起を伴う平縁 胎土に繊維多く含む 関山式
第6図2	239J	深鉢	-	-	*6.1	わずか	褐色	組紐系縄文 臼歯状突起を伴う平縁 胎土に繊維多く含む 関山式
第6図3	239J	深鉢	-	-	*4.8	わずか	褐色	多段のループ文 臼歯状突起を伴う平縁 胎土に繊維多く含む 関山式
第6図4	239J	深鉢	-	-	*3.7	わずか	明褐色	多段のループ文 臼歯状突起を伴う平縁 胎土に繊維多く含む 関山式
第6図5	239J	深鉢	-	-	*11.2	0	褐色	直前段合燃による羽状縄文 コンパス状平行沈線文 胎土に繊維多く含む 関山式
石 器 類								
No.	出土 遺構	器種	法量 (単位はcm、*は現存)			材質	備考等	
			長さ	幅	厚さ			
第6図6	239J	二次加工 のある剥片	1.7	3.5	0.5	頁岩		
第6図7	239J	二次加工 のある剥片	4.0	3.6	1.1	チャート		
第6図8	239J	石皿	23.4	21.7	6.8	花崗閃緑岩	表裏面ともに磨耗あり。黒色タール状付着物あり。被熱による割れ	
第6図9	239J	磨石・ 凹石	10.6	10.1	5.7	安山岩	表裏面ともに磨耗・敲打痕あり	
第6図10	239J	棒状礫	9.5	2.1	1.7	砂岩		
第6図11	239J	棒状礫	9.2	2.7	1.8	砂岩	被熱による赤変・割れ	
第6図12	239J	棒状礫	9.4	2.6	1.8	泥岩		

第3表 第239号住居跡出土遺物観察表(239J)



第7図 打越遺跡第48-3地点遺構外出土遺物(原寸)

No.	出土	器種	法量 (単位はcm、*は現存)			材質	備考等
			長さ	幅	厚さ		
第7図1	遺構外	石鏃	*2.2	1.6	0.3	玉髄	端部欠損
第7図2	遺構外	石鏃	*1.8	1.5	0.3	黒曜石	端部欠損 衝撃剥離か

第4表 打越遺跡第48-3地点遺構外出土遺物観察表

第3章 御庵遺跡第50地点

第1節 遺跡の概要

1. 遺跡の立地と調査地点の概要

御庵遺跡は、市城南西部の鶴馬一・二丁目に位置し、東に新河岸川と合流する富士見江川、北に富士見江川に合流する権平川を臨んだ台地縁辺部に立地している。遺跡南西部では新田遺跡と八ヶ上遺跡に隣接しているほか、富士見江川を挟んだ対岸には、市内有数の縄文時代集落跡である打越遺跡が広がっている。

御庵遺跡における過去の調査では、主に縄文時代早期～中期の集落跡、平安時代の集落跡、近世の遺構が確認されている。

縄文時代早期の遺構・遺物としては炉穴・土坑が確認されているほか、包含層などから早期後半の土器片が出土する例が多い。縄文時代前期では、関山式期を中心とした住居跡約20軒などの遺構が確認され、うち7軒では貝層が確認されている。縄文時代中期では、遺跡範囲南西部の第42地点で中期中葉の住居跡2軒、北部の第14地点で中期後半の住居跡1軒、そのほか土坑・集石等が数基確認されている。

今回の第50地点は、遺跡の南部に位置し、東側では富士見江川の崖線と接する。調査区の地表面は南東に向かって緩やかに傾斜しており、南東端では急激な法面と擁壁によって崖下の低地と隔てられていた。

2. 発掘調査の経過

第50地点では、宅地造成工事に伴う試掘調査を令和5年4月17日～19日に実施した。

試掘調査の結果、検出された遺構の深度から、工事の掘削等の影響が遺構に及び、十分な保護層を確保できない見込みであったことから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

調査は、令和5年5月12日～5月24日に実施した。

調査で検出された遺構は、縄文時代中期の住居跡1軒（23J）である。



第8図 御庵遺跡第50地点 (1/5000)

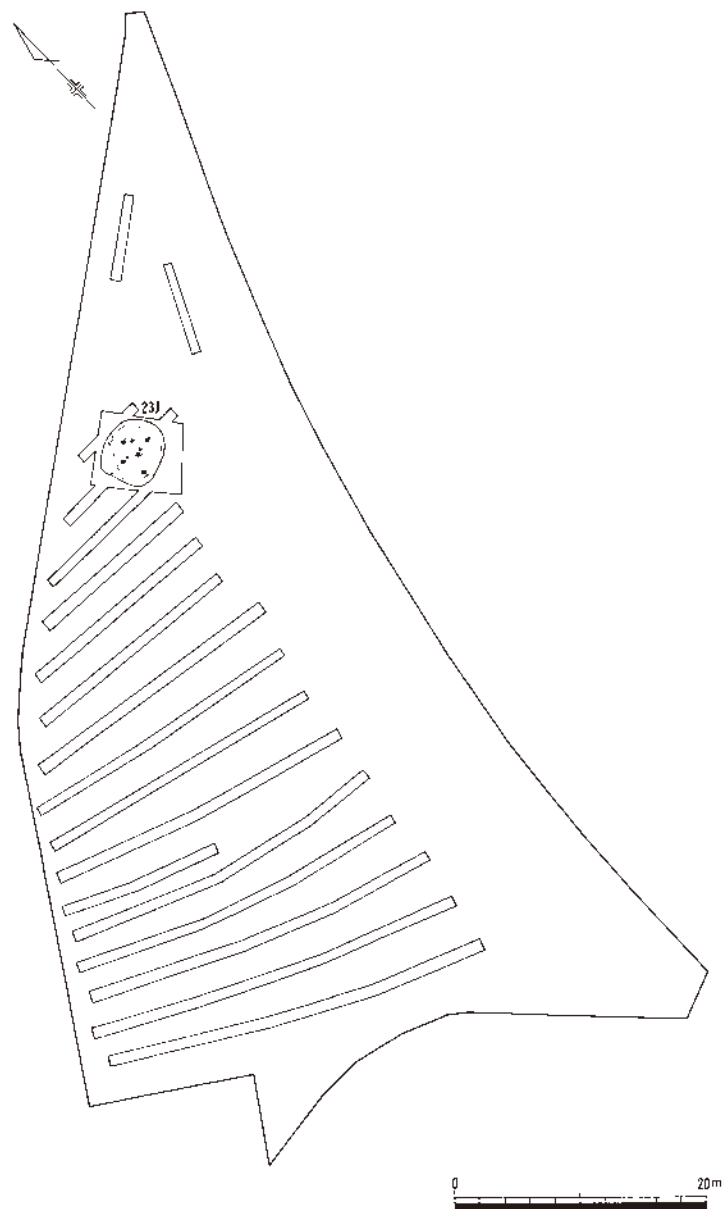
第2節 縄文時代の遺構と遺物

1. 住居跡

第23号住居跡（23J）（第10～12図）

〔位置・概要〕 調査区の北側に位置する。遺構確認面としたローム層上面が南東に向かって落ち込んでおり、主に南東側において、調査における遺構確認面よりも高い位置に本来の掘り込み面があったことが想定される。詳細は後述するが、勝坂式と阿玉台

系の土器が伴った出土が認められた。御庵遺跡における阿玉台系土器の出土例は僅かであるが、南西側で隣接する新田遺跡においては、今回の調査地点から西に約140mの地点に位置する第5号住居跡（5J）で勝坂式と阿玉台系土器の伴出する住居跡が確認されているなど、阿玉台系土器を伴う遺構の検出や土器片の分布が確認されており、本遺構とそれらとの関連性は高いものと推測される。



第9図 御庵遺跡第50地点遺構分布図（1/600）

〔構造〕（平面形）やや隅丸方形に近い円形。（規模）5.0m×4.6mを測る。（主軸方位）N-30°-W（壁高）緩やかに立ち上がっており、北西側ではテラス状の平坦面が認められる。床面から測る高さは、南東側で12cm、北西側で50cm。（床）全体が南東方向にやや傾斜している。明確な硬化面は認められない。（柱穴）P1～P7が認められた。床面上からの深さは51～97cmを測る。P5-P4-P2-P6の4本を主柱穴とした4本柱住居が想定される。P1・P3は補助的な柱穴か、あるいは建て替え等に伴うものか。P7は炉体土器の抜き取り痕か。（炉）住居中央やや南寄りに埋甕炉が設けられ、3個体の土器埋設が確認された。いずれの土器も、土器上端が住居床面から2～5cmほど突出するような位置で埋設されている。少なくとも炉体土器1と3には新旧関係が認められ、炉の廃絶と新設があったことが伺われる。

〈炉体土器1〉深鉢口縁部と下部を打ち欠き、炉体土器3を切って埋設されている。明瞭な焼土は観察されない。土器内面の下部は煤けたような黒色を呈する。

〈炉体土器2〉深鉢下半を打ち欠いて埋設されている。他の炉体土器と重複しないため、新旧関係は不明瞭である。明瞭な焼土は観察されない。土器内面の下部は煤けたような黒色を呈する。

〈炉体土器3〉深鉢下半を打ち欠いて埋設されている。炉体土器1埋設の掘り込みに切られており、口縁部は約1/3のみ残存していた。土器外面に接する部分で焼土の集中が認められた。

〔覆土〕暗褐色土を基調とし、9層に分層される。

〔遺物出土状況〕覆土中を中心に、土器・土製品・石器類の出土があった。出土した土器片の総量としては勝坂1b～2式が主体となるが、阿玉台系も多分に含まれている。定量的な分析には至らなかったが、2型式間で出土する層位や出土量に大きな偏りはない印象をうける。

土製品としては、土器片錘が比較的まとまって出土しており、特筆される。住居中央やや東よりの部分では、50cm×50cm×深さ10cm程の範囲において、覆土中から9点の土器片錘が集中して出土した。う

ち8点の出土状況を第12図L-L'に図示している。

〔時期〕縄文時代中期中葉

第23号住居跡出土遺物（第12～14図、第5～7表）

第13図1～3は炉体土器。1は口縁部が外反する深鉢。下部は打ち欠かれており、口縁部もおそらくは意図的な打ち欠き。確認できる範囲では文様帯は口縁部と胴部に分かれる。胴部の文様帯は隆帯と連続爪形文で区画され、各区画には三叉文が施文されるものと空白のままのものがある。文様帯の間は細く密な縦位の沈線文と、それを切る太い横位の沈線文により埋められている。2・3はともに円筒形の深鉢で、上下を打ち欠かれている。縦位の隆帯によって4単位に区画され、2～3条の連続する刻み目が横位に巡らされている。2に施される隆帯は粘土紐貼り付けの上から潰すように押さえつけられ、波打つような形状。3に施される隆帯は断面が三角形を呈するもの。阿玉台式Ib～II式に相当する。

第14図10は人面装飾を施す土器。波状口縁の波長部にハチマキ状に粘土紐を巻き付けてハート形の輪郭を成形し、土器外面側に刻み目と刺突文によって目と口を表現している。内面側では巻き付けた粘土紐の盛り上がりを残しながら、その中央に刺突文を施している。毛髪表現か。土器全体の様子は不明瞭であるが、外面側では人面部の直下に隆帯による懸垂文が伸びており、体部表現が伴っていた可能性がある。

第14図11・12は条痕文系土器片。遺構外からの流れ込みであろう。

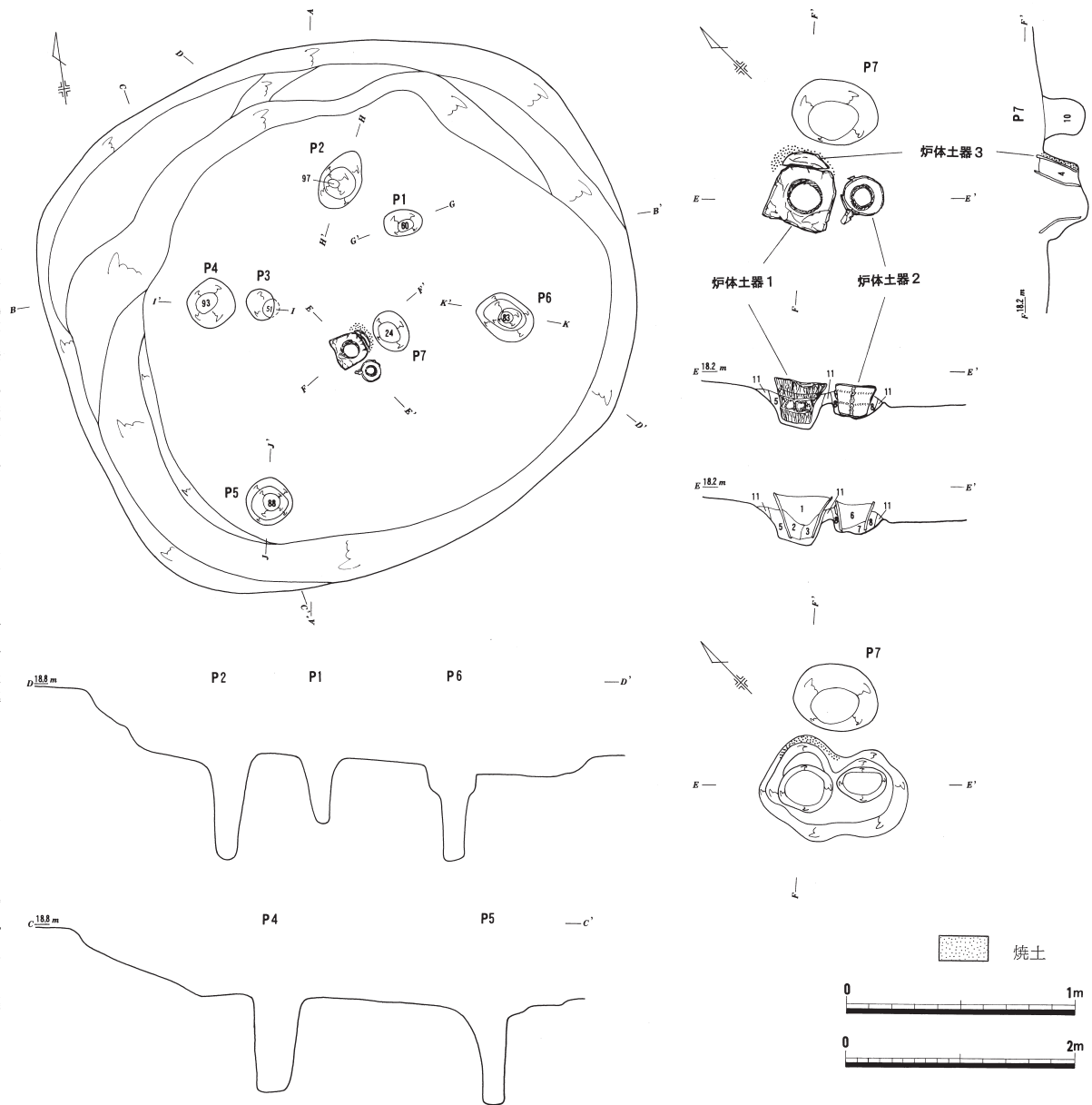
第12図1～14は土器片錘。確認された全点を図化している。周縁の最終加工は摩擦によるものが多い。1～9は集中部L-L'から出土したものである。

2. 遺構外出土遺物（第14図・第8表）

遺構外からは、23Jに由来すると思われる縄文時代中期の土器片のほか、石器類、縄文時代早期後半の土器片などがわずかに出土した。

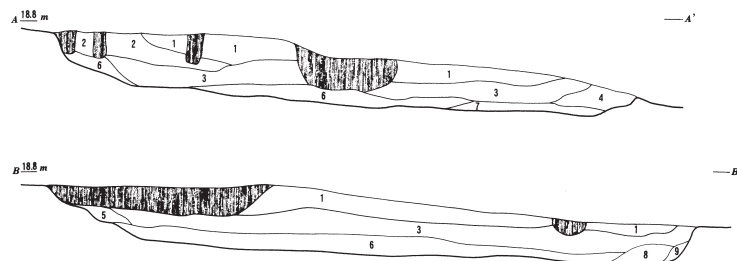
16は同図7と同一個体の土器片である。

17は打製石斧。下半を一度折損しているが、折れ面には折損後の使用による小剥離が認められる。



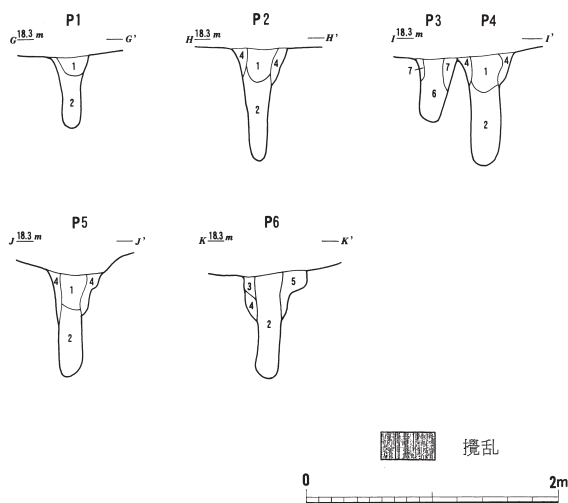
第23号住居跡1号炉・P7 (23J 1号炉、23J P7 : E-E'、F-F')

- 1 黒褐色土 ローム粒を含む。炭化粒をわずかに含む。しまり弱。粘性弱。
- 2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。炭化粒をわずかに含む。しまり弱。粘性弱。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック、炭化粒をわずかに含む。しまり弱。粘性弱。
- 4 黒褐色土 焼土ブロックを含む。しまり弱。粘性弱。
- 5 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、焼土ブロックを含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 6 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。しまり弱。粘性弱。
- 7 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。炭化粒をわずかに含む。しまり弱。粘性弱。
- 8 黒褐色土 黒味の強い色調。焼土ブロック、中粒砂を含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 9 黒褐色土 黒味の強い色調。焼土ブロック、中粒砂を含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 10 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。焼土粒、炭化粒をわずかに含む。しまりややあり。粘性あり。
- 11 灰黄褐色土 焼土ブロック、ロームブロックを多く含む。黒色土ブロックを含む。しまりあり。粘性ややあり。



第 23 号住居跡 (23 J : A-A'~D-D')

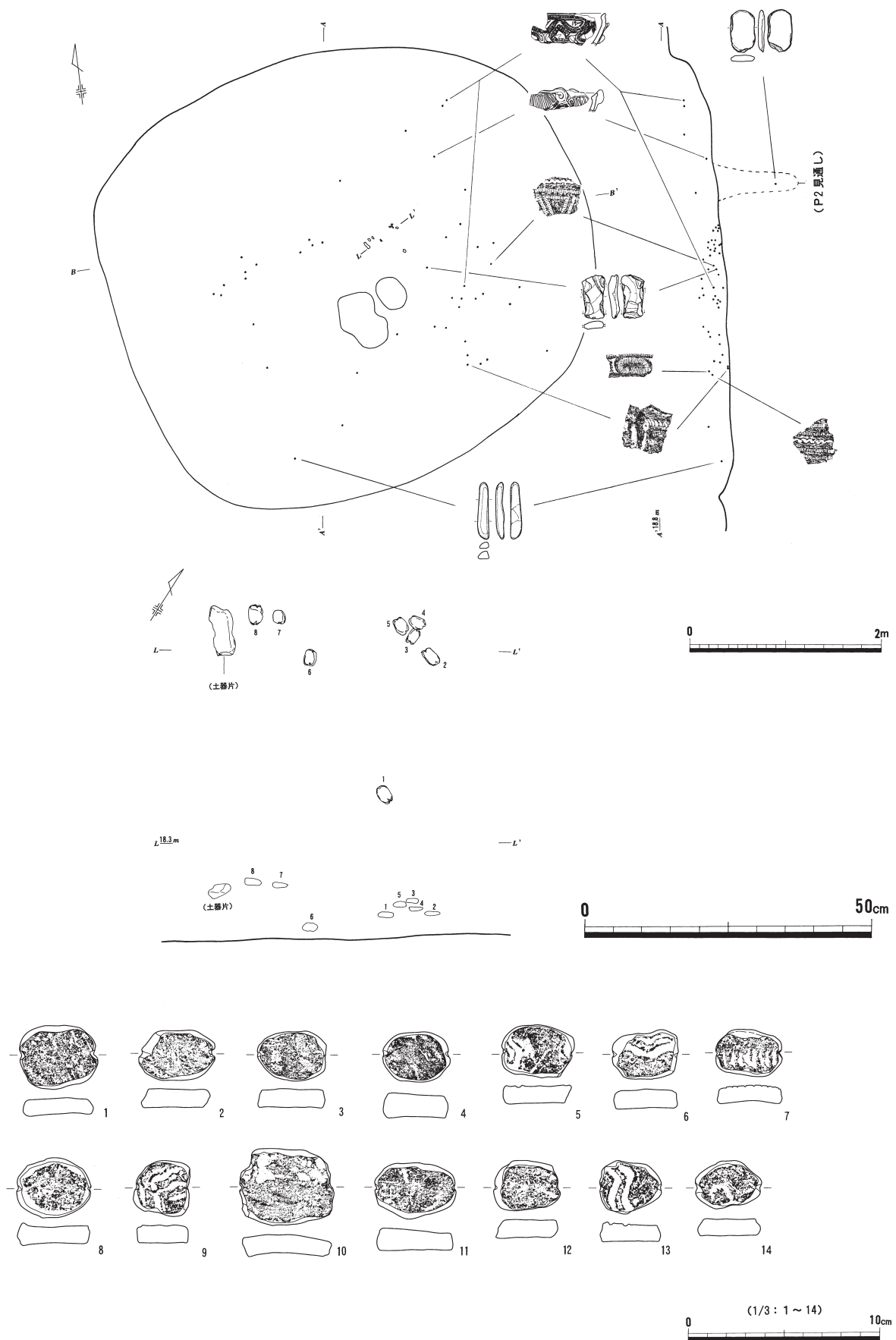
- 1 黒褐色土 粘性弱くボソボソ。ローム粒、焼土粒、炭化粒、細粒砂をわずかに含む。しまり弱。粘性弱。
- 2 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。焼土粒、炭化粒をわずかに含む。しまりややあり。粘性やや弱。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックが滲むように多く含まれ、斑状を呈する。焼土粒、炭化粒をわずかに含む。しまりややあり。粘性やや弱。
- 4 黒褐色土 3層に準じた様相を呈するが、ロームブロックがより多く含まれている。
- 5 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。中粒砂を含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 6 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックをやや多く含む。焼土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 7 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。焼土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 8 暗黄褐色土 ローム粒を多く含む。焼土粒、中粒砂をわずかに含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
- 9 黄褐色土 焼土粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。



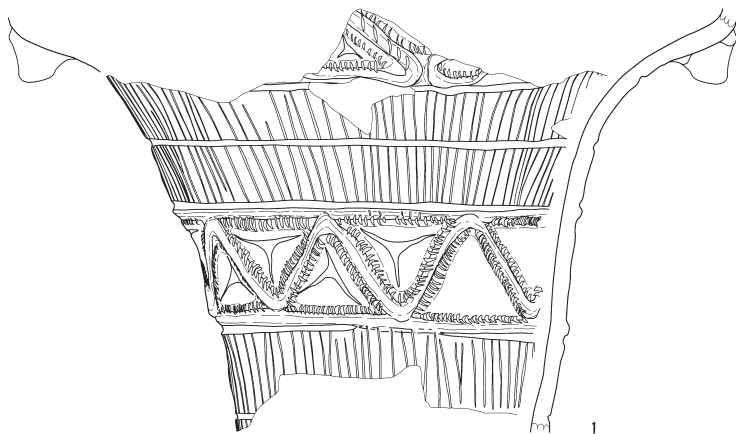
第 23 号住居跡 P 1~P 6 (23 J P 1~P 6 : G-G'~K-K')

- 1 黒褐色土 黒みの強い色調。ローム粒、ロームブロック、炭化粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
- 2 黒褐色土 黒みの強い色調。中粒砂を含む。ローム粒、ロームブロック、炭化粒をわずかに含む。しまり弱。粘性弱。
- 3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。しまりあり。粘性やや強。
- 4 黒褐色土 ローム粒を多く含む。ロームブロックをやや多く含む。しまりあり。粘性やや強。
- 5 黒褐色土 中粒砂を含む。ローム粒、ロームブロックをわずかに含む。しまりややあり。粘性やや弱。
- 6 暗褐色土 焼土粒、炭化粒、ローム粒をわずかに含む。しまりあり。粘性あり。
- 7 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。しまりあり。粘性やや強。

第11図 第23号住居跡 2 (23 J : 1/60)

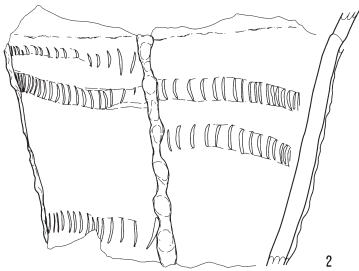


第12図 第23号住居跡遺物出土状況・出土土製品 (23 J : 1/60・1/10・1/3)

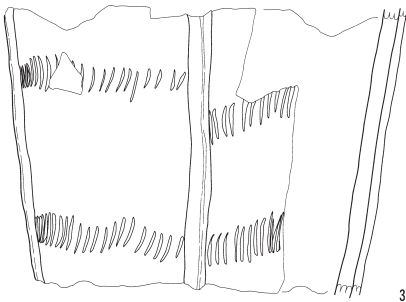


(炉体土器 1)

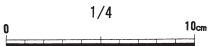
23J



(炉体土器 2)



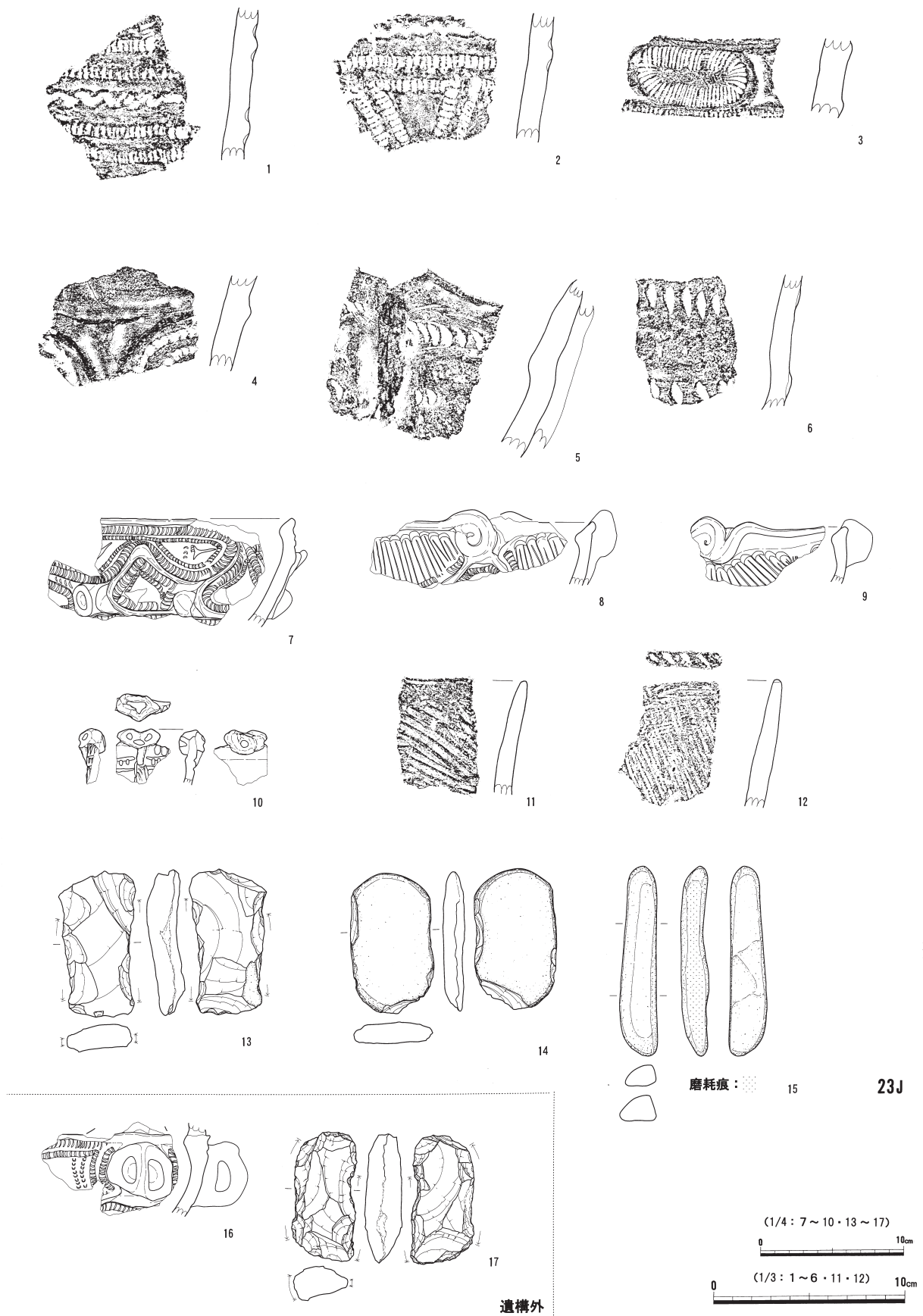
(炉体土器 3)



第13図 第23号住居跡遺物出土遺物 1 (23 J : 1/4)

No.	出土 遺構	器種	法量 (単位はcm、*は現存、#は復元)			口縁遺存 (完形を 1とする)	色調	備考等
			口径	底径	器高			
第13図 1	23J (炉体 土器1)	深鉢	-	-	*22.8	0	褐色	口縁部・下部を打ち欠く 内面下部が黒変 沈線文・半裁竹管による押引き文・三叉文 勝坂1b式
第13図 2	23J (炉体 土器2)	深鉢	-	-	*13.7	0	褐色	口縁部・下部を打ち欠く 内面・外面ともに下部が黒変 粘土紐貼り付けによる縦位の隆帯・横位に連続する刻み 胎土に雲母を少量含む 阿玉台 I b～II 式期
第13図 3	23J (炉体 土器3)	深鉢	-	-	*15.2	0	褐色	口縁部・下部を打ち欠く 内面・外面ともに器面荒れ、下部が黒変 粘土紐貼り付けによる縦位の隆帯・横位に連続する刻み 胎土に雲母を含む 阿玉台 I b～II 式期

第 5 表 第23号住居跡出土遺物観察表 (23 J) 1



第14図 第23号住居跡遺物出土遺物 2 (23 J) ・遺構外出土遺物 (1/4)

土 器								
No.	出土遺構	器種	法量 (単位はcm、*は現存、#は復元)			口縁遺存 (完形を1とする)	色調	備考等
			口径	底径	器高			
第14図 1	23J	深鉢	-	-	*8.2	0	褐色	押引き文 勝坂1b～2式
第14図 2	23J	深鉢	-	-	*6.9	0	褐色	押引き文 勝坂1b～2式
第14図 3	23J	深鉢	-	-	*4.3	0	褐色	押引き文 勝坂1b～2式
第14図 4	24J	深鉢	-	-	*5.4	0	褐色	三角押文 胎土に雲母を少量含む 勝坂式
第14図 5	23J	深鉢	-	-	*9.5	わずか	褐色	波状口縁頂部 粘土紐貼り付けによる縦位の隆帯 横位に連続する刻み目 胎土に雲母を含む 阿玉台系
第14図 6	23J	深鉢	-	-	*7.2	0	褐色	横位に連続する刻み目 胎土に雲母を含む 阿玉台系
第14図 7	23J	深鉢	-	-	*7.5	わずか	褐色	半裁竹管による押引き文・三叉文 勝坂1b～2式
第14図 8	23J	深鉢	-	-	*5.2	わずか	褐色	半裁竹管による押引き文 半裁竹管による刺突と沈線を組み合わ せ、蓮華状文に近い施文 勝坂1b～2式 9とは同一個体
第14図 9	23J	深鉢	-	-	*4.7	わずか	褐色	半裁竹管による刺突と沈線を組み合わ せ、蓮華状文に近い施文 勝坂1b～2式 8とは同一個体
第14図 10	23J	深鉢 か	-	-	*3.9	わずか	暗赤 褐色	波状口縁頂部 人面装飾を施す 胎土に雲母を含む 阿玉台系か
第14図 11	23J	深鉢	-	-	*6.0	わずか	褐色	内外面ともに条痕文 胎土に繊維少量含む
第14図 12	23J	深鉢	-	-	*6.3	わずか	褐色	内外面ともに条痕文 口唇部に刻み目 胎土に繊維少量含む
石 器								
No.	出土遺構	器種	法量			材質	備考等	
			長さ	幅	厚さ			
第14図 13	23J	打製 石斧	10.1	5.3	2.6	ホルン フェルス		
第14図 14	23J (P2)	礫器	9.8	5.7	1.5	結晶 片岩	掘り具か	
第14図 15	23J	磨石	13.2	2.6	2.0	凝灰岩	棒状の外形	

第6表 第23号住居跡出土遺物観察表 (23J) 2

No.	出土遺構	器種	法量 (単位はcm、*は現存)			備考等
			長軸	短軸	厚さ	
第12図 1	23J	土器片錘	4.1	3.3	1.0	土器片錘集中部(L-L')より出土 周縁の調整: 摩擦による 胎土に雲母片を含む
第12図 2	23J	土器片錘	4.0	2.6	1.0	土器片錘集中部(L-L')より出土 周縁の調整: 打撃・摩擦を併用
第12図 3	23J	土器片錘	3.6	2.6	1.0	土器片錘集中部(L-L')より出土 周縁の調整: 摩擦による 胎土に雲母片を含む
第12図 4	23J	土器片錘	3.5	2.6	1.3	土器片錘集中部(L-L')より出土 周縁の調整: 摩擦による
第12図 5	23J	土器片錘	3.7	2.8	1.0	土器片錘集中部(L-L')より出土 周縁の調整: 打撃・摩擦を併用 胎土に雲母片を含む
第12図 6	23J	土器片錘	3.4	2.6	1.1	土器片錘集中部(L-L')より出土 周縁の調整: 摩擦による 胎土に雲母片を含む
第12図 7	23J	土器片錘	3.4	2.5	1.0	土器片錘集中部(L-L')より出土 周縁の調整: 摩擦による 胎土に雲母片を含む
第12図 8	23J	土器片錘	3.8	3.1	1.1	土器片錘集中部(L-L')より出土 周縁の調整: 摩擦による 胎土に雲母片を含む
第12図 9	23J	土器片錘	2.9	2.9	1.0	土器片錘集中部(L-L')より出土 周縁の調整: 打撃・摩擦を併用 胎土に雲母片を含む
第12図 10	23J	土器片錘	4.9	4.0	1.0	周縁の調整: 打撃・摩擦を併用
第12図 11	23J	土器片錘	4.3	2.9	1.2	周縁の調整: 摩擦による
第12図 12	23J	土器片錘	3.5	2.6	1.0	周縁の調整: 摩擦による 胎土に雲母片を含む
第12図 13	23J	土器片錘	3.2	2.8	1.0	周縁の調整: 摩擦による
第12図 14	23J	土器片錘	3.4	2.5	0.9	周縁の調整: 摩擦による 胎土に雲母片を含む

第7表 第23号住居跡出土遺物観察表 (23J) 3

土 器							
No.	出土	器種	法量 (単位はcm、*は現存、#は復元)			口縁遺存 (完形を1とする)	備考等
			口径	底径	器高		
第16図 16	遺構外	深鉢	-	-	*6.5	わずか	褐色 半裁竹管による押引き文・眼鏡状突起 勝坂1b~2式 第16図7とは同一個体
石 器							
No.	出土	器種	法量 (単位はcm、*は現存)			材質	備考等
			長さ	幅	厚さ		
第16図 17	遺構外	打製 石斧	9.0	4.4	2.6	片状砂岩	使用に伴う微細な剥離が認められる

第8表 御庵遺跡第50地点遺構外出土遺物観察表

第4章 氷川前遺跡第78・80地点

第1節 遺跡の概要

1. 遺跡の立地と調査地点の概要

氷川前遺跡は、武蔵野台地水子支台の北端部に広がる広大な遺跡である。遺跡の西部から南西部は、富士見江川の支流によって開析された桜井谷と呼ばれる小支谷によって画され、緩やかな傾斜を呈している。遺跡北東部では、富士見江川の流れによって形成された急峻な崖線に面している。

遺跡東側には東前遺跡が隣接し、遺跡南東部では縄文時代前期の貝塚を伴う環状集落である、史跡水子貝塚を内包するように接している。遺跡西側に位置する小支谷の対岸には、打越遺跡・松山遺跡が位置している。

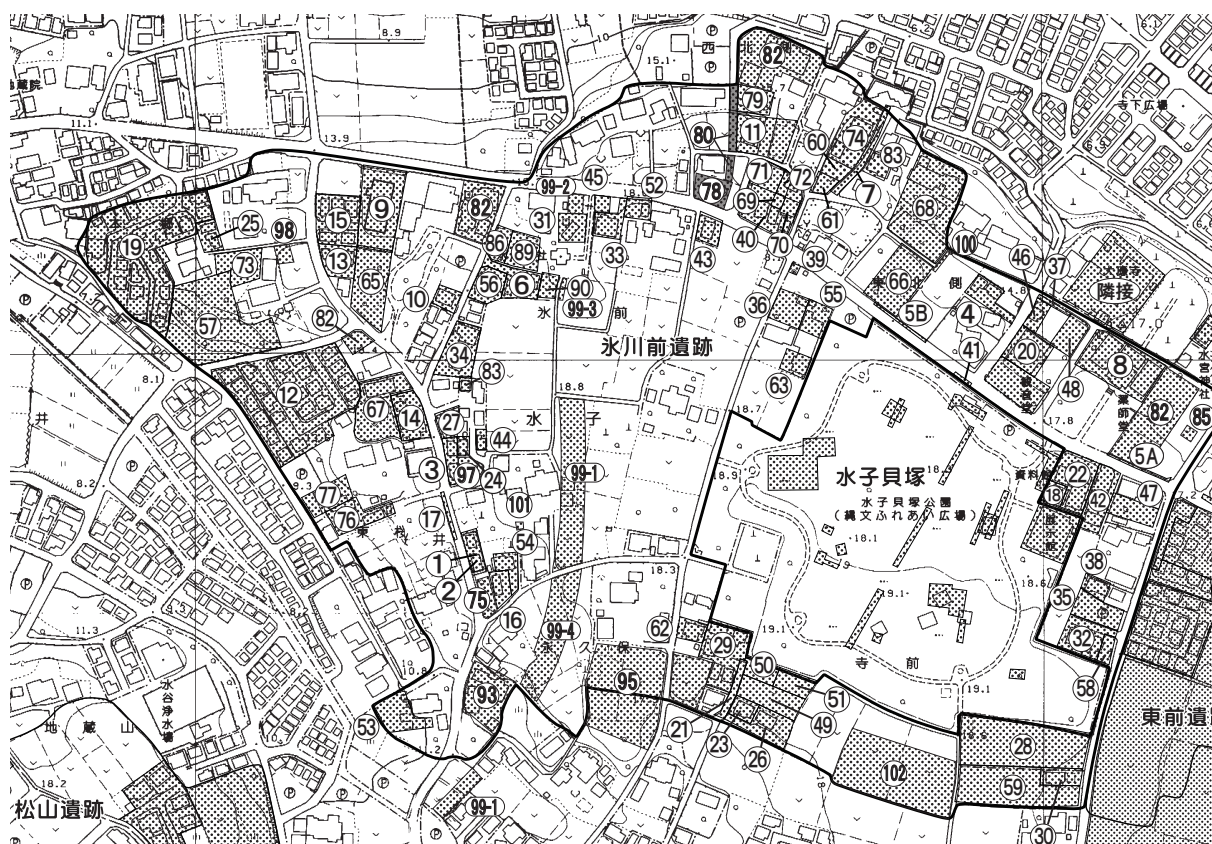
旧石器時代の遺物出土地点としては、遺跡北東部において、第IV層から尖頭器を含む石器群と礫群が検出されている。

縄文時代の遺構としては、主に早期後半の住居跡2軒、炉穴50基以上、前期住居跡10軒以上、中期住居跡3軒が検出されている。後期においては称名寺式期の住居跡1軒が確認されているほか、遺跡北部に位置する第7地点において注口土器の出土例がある。

弥生時代～古墳時代は住居跡30軒以上などが確認されているほか、遺跡北部で方形周溝墓や円墳の周溝と思われる遺構が検出されている。

平安時代は住居跡40軒以上、掘立柱建物群が確認されている。なかでも遺跡西部で検出された住居跡のうち2軒が鍛冶工房跡と推定されており、特筆されるものである。

今回の調査地点は遺跡の北側に位置する。付近での遺構分布は比較的まばらな範囲である。



第15図 氷川前遺跡第78・80地点1 (1/5000)

2. 発掘調査の経過

第78地点

第78地点では、分譲住宅の建築及び道路新設に伴う試掘調査を平成30年6月5日に実施した。

検出された遺構のうち、道路予定地にかかる平安時代の住居跡1軒については、記録保存を目的とした発掘調査を実施し、それ以外の遺構については現状保存の措置をとることとなった。

調査は、平成30年7月9日～7月26日に実施した。

第80地点

第80地点では、道路新設に伴う試掘調査を平成30年6月22日に実施した。

検出された遺構については、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

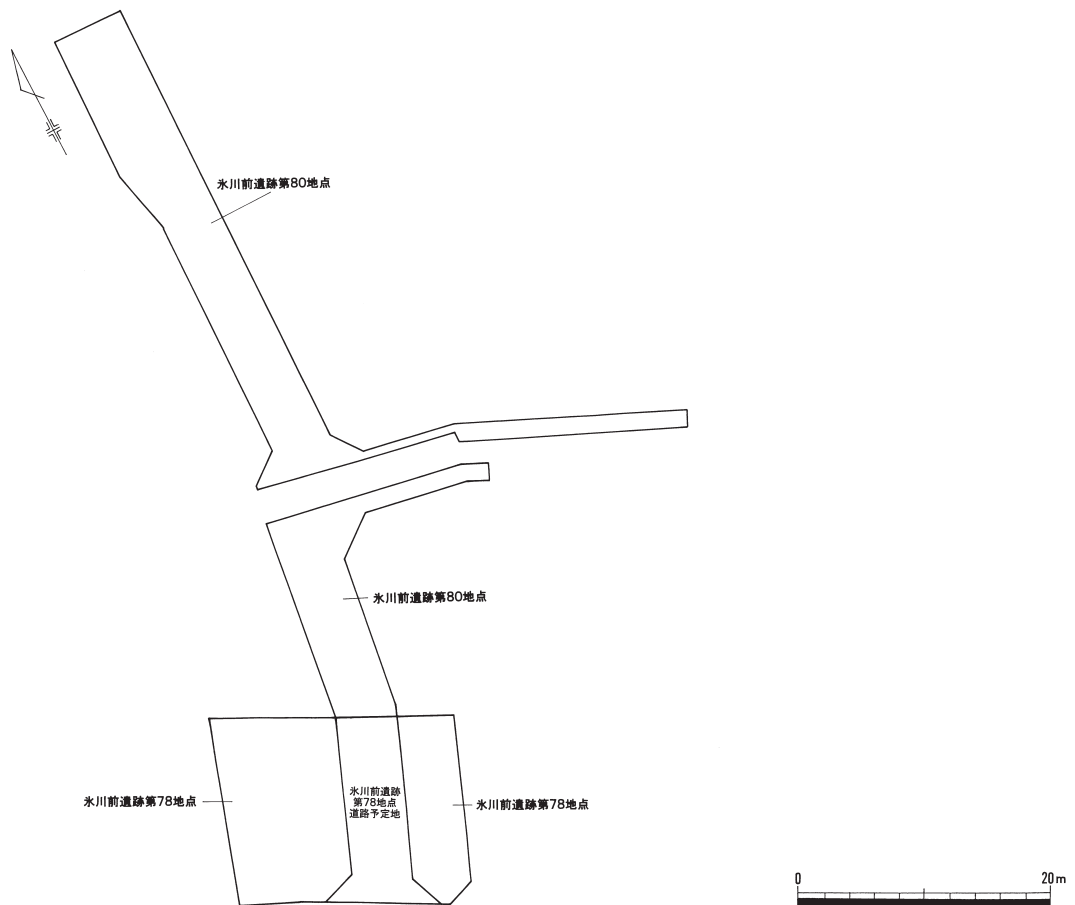
調査は、平成30年7月9日～7月26日に実施した。

第78・80地点の調査は並行して行われた。両地点にまたがって検出された遺構があること、また78・80地点一括出土として取り上げられた遺物が多くあることから、本報告では第78・80地点を一括して報告を行う。

両地点の調査で検出された遺構は、下記のとおりである。

第78地点：平安時代の住居跡1軒(53H)

第80地点：縄文時代の住居跡1軒(15J)、縄文時代の土坑3基(75～77JD)、縄文時代の炉穴2基(57・58FP)、平安時代の住居跡1軒(53H)、中世以降の溝跡1条(47M)



第16図 氷川前遺跡第78・80地点2 (1/600)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

1. 住居跡

第15号住居跡(15J) (第18図)

〔位置・概要〕 第80地点調査区の北端に位置する。調査区内で検出されているのは全体の約1/4であるが、住居南西側の突出部を出入口とした柄鏡形住居跡が想定される。

76JD・58FPとは重複し、切っている。

〔構造〕 (平面形) 柄鏡形か。(規模) 主体部は3.0m以上×2.8m以上、長方形を呈する柄部は約2.5m×約1.5mを測る。(主軸方位) N-46°-E (壁高) 床面から測る高さは主体部で2~6cm、柄部で10~15cmを測る。

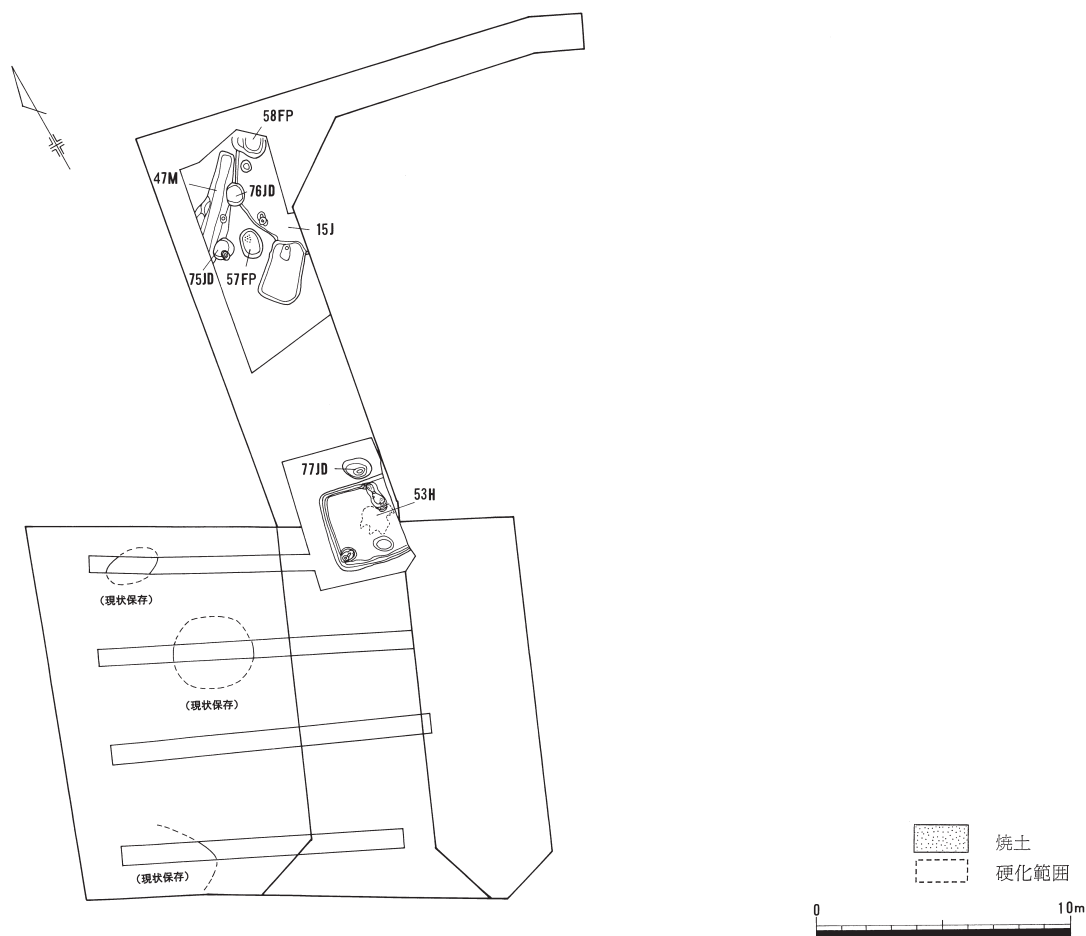
(床) 平坦であるが、柄部では主体部からわずかに掘り下がる。明確な硬化面は認められない。

(柱穴) 床面上に3基が認められた。床面上からの深さは15~45cmを測る。主体部と柄部の接続部に位置するピットは、検出された位置から埋設土器の抜き取り痕であることも想定できるか。(炉) 調査区内では確認できない。

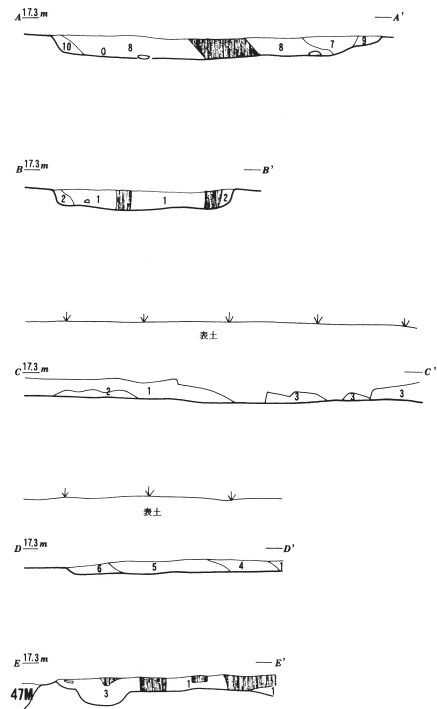
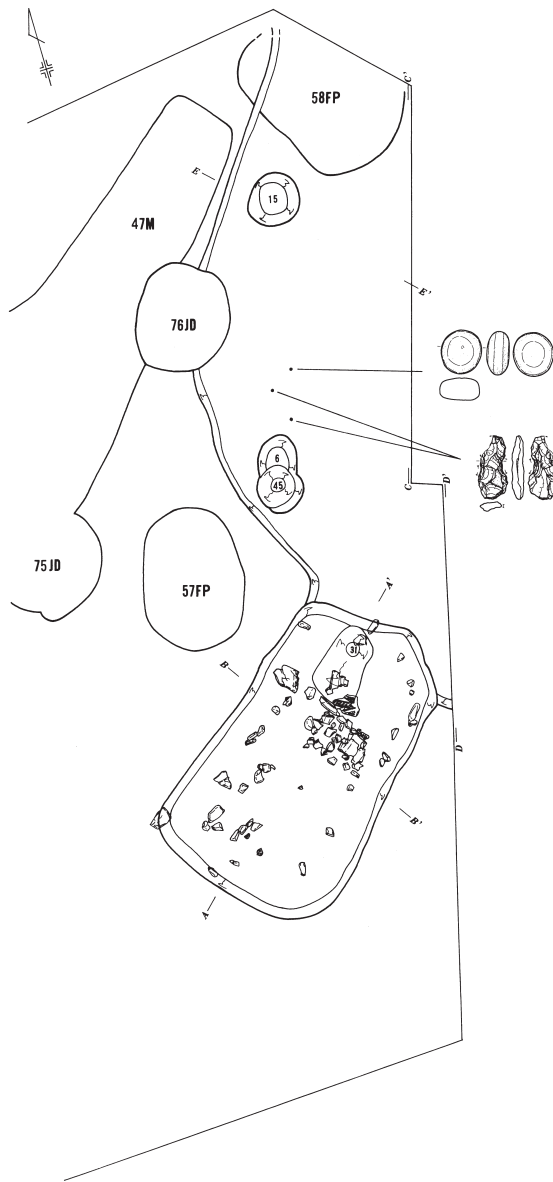
〔覆土〕 暗褐色土~淡暗黄褐色土を基調とし、10層に分層される。

〔遺物出土状況〕 覆土中~床面上から土器片・石器類が出土した。土器片の主体となるのは称名寺式~堀之内式である。柄部では土器片・石器・被熱礫等がやや集中して出土した。

〔時期〕 縄文時代後期前半



第17図 氷川前遺跡第78・80地点遺構分布図(1/300)



第18図 第15号住居跡 (15J : 1/30・1/60)



第19図 第15号住居跡出土遺物(15J)・遺構外出土縄文時代遺物(1/3・1/4)

土 器								
No.	出土 遺構	器種	法量 (単位はcm、*は現存、#は復元)			口縁遺存 (完形を 1とする)	色調	備考等
			口径	底径	器高			
第19図1	15J	深鉢	-	-	*20.5	1/6	褐色	器面荒れる。沈線文による区画・充填縄文堀之内式
第19図2	15J	深鉢	-	-	*12.2	0	褐色	器面荒れる。沈線文堀之内式
第19図3	15J	深鉢	-	-	*3.5	わずか	褐色	器面荒れる。沈線文による区画・充填縄文堀之内式
第19図4	15J	深鉢	-	-	*4.2	わずか	明褐色	器面荒れる。沈線文による区画・充填縄文堀之内式
第19図5	15J	深鉢	-	-	*5.8	0	褐色	沈線文による区画・充填縄文堀之内式
第19図6	15J	深鉢	-	-	*3.9	わずか	明褐色	口縁部に横位の沈線文・刺突文堀之内式
第19図7	15J	深鉢	-	-	*7.5	0	褐色	無文、縦位方向のミガキ様の調整後期の粗製土器か
第19図14	遺構外	深鉢	-	-	*6.5	1/8	褐色	沈線文・刺突文 堀之内式
第19図15	遺構外	深鉢	-	-	*7.6	わずか	暗褐色	沈線文 加曾利B式
第19図16	遺構外	深鉢	-	-	*5.2	わずか	暗赤褐色	沈線文・刺突文 堀之内式か
第19図17	遺構外	深鉢	-	-	*10.3	1/8	褐色	無文 斜方向の調整後期の粗製土器か
第19図18	遺構外	深鉢	-	-	*4.7	0	明褐色	沈線文による区画 称名寺式
第19図19	遺構外	注口か	-	-	*3.9	0	黒褐色	並行沈線・充填縄文堀之内式～加曾利B式
石 器								
No.	出土 遺構	器種	法量			材質	備考等	
			長さ	幅	厚さ			
第19図8	15J	打製石斧	11.2	5.2	1.7	ホルンフェルス		
第19図9	15J	礫器	7.5	4.2	2.8	ホルンフェルス	掘り具か	
第19図10	15J	磨製石斧	*5.0	*5.1	*3.2	凝灰岩		
第19図11	15J	磨石	7.8	7.1	3.2	閃緑岩	ほぼ全面が磨耗	
第19図12	15J	磨石	*9.4	*6.5	*5.9	安山岩	被熱による赤変・割れ	
第19図13	15J	石皿	*12.6	*9.6	*5.8	砂岩		

第9表 第15号住居跡(15J)・氷川前遺跡第78・80地点遺構外出土縄文時代遺物観察表

2. 土坑

第75号土坑(75JD) (第20図)

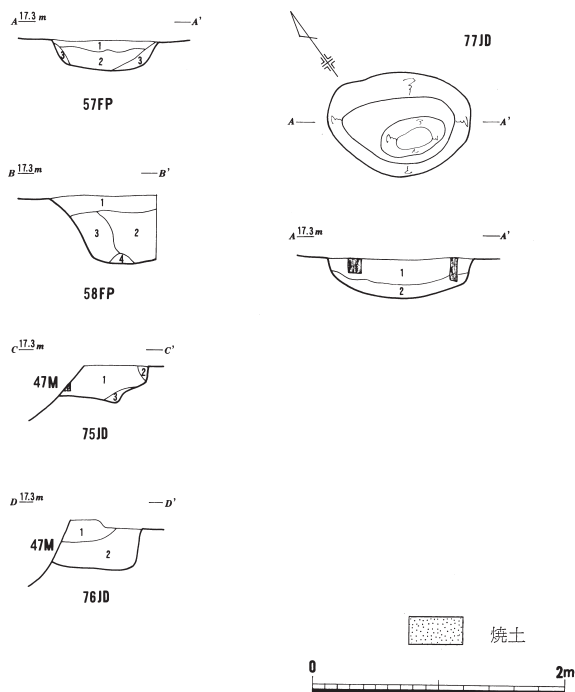
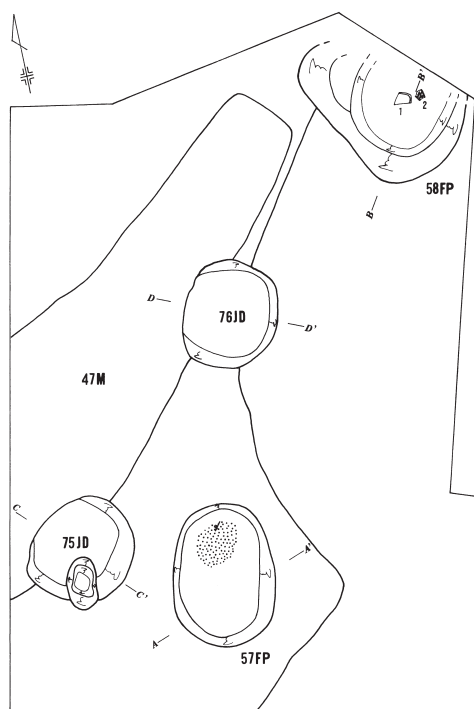
[覆土] 淡暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

[位置] 第80地点調査区北側に位置する。47Mと重複し、切られている。

[遺物出土状況] 縄文時代土器片が少量出土したが、図示には至らなかった。

[構造] (平面形) 円形。(断面形) 碗状を呈すが、一部分のみピット状に掘り下がる。(規模) 84cm×80cm以上×深さ23cm。

[時期] 縄文時代



第 57 号炉穴 (57FP : A-A')

- 1 暗褐色土 しまり強。粘性弱。
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強。粘性弱。
- 3 淡暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。しまり強。粘性弱。

第 58 号炉穴 (58FP : B-B')

- 1 褐色土 ローム粒、焼土粒をわずかに含む。しまり極めて強。粘性弱。
- 2 褐色土 1層よりもやや明るい色調。ローム粒をわずかに含む。焼土粒をやや多く含む。しまり極めて強。粘性弱。
- 3 淡暗黄褐色土 ローム粒を少量含む。焼土粒をわずかに含む。しまり極めて強。粘性あり。
- 4 黄褐色土 ロームブロックが主体となる。しまり極めて強。粘性あり。

第 75 号土坑 (75JD : C-C')

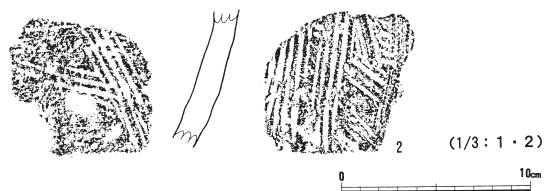
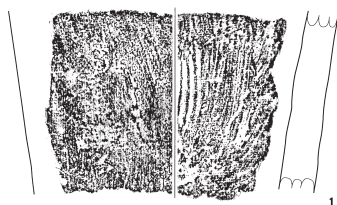
- 1 淡暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり極めて強。粘性弱。
- 2 黄褐色土 ロームブロックが主体となる。しまり極めて強。粘性あり。
- 3 淡暗黄褐色土 ローム粒、ロームブロックをやや多く含む。しまり極めて強。粘性あり。

第 76 号土坑 (76JD : D-D')

- 1 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり極めて強。粘性弱。
- 2 淡暗褐色土 やや黄色がかった色調。ローム粒をやや多く含む。しまり極めて強。粘性弱。

第 77 号土坑 (77JD : A-A')

- 1 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり極めて強。粘性弱。
- 2 淡暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり極めて強。粘性弱。



第 20 図 第 75~77 号土坑、第 57・58 号炉穴、第 58 号炉穴出土遺物 (75~77 JD、57・58FP : 1/60・1/3)

第76号土坑 (76JD) (第20図)

〔位置〕 第80地点調査区北側に位置する。15J・47Mと重複し、切られている。

〔構造〕 (平面形) 円形。 (断面形) 竪穴状。 (規模) 82cm×72cm以上×深さ33cm。

〔覆土〕 淡暗褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔遺物出土状況〕 縄文時代土器片が少量出土したが、図示には至らなかった。

〔時期〕 縄文時代

第77号土坑 (77JD) (第20図)

〔位置〕 第80地点調査区南側に位置する。

〔構造〕 (平面形) 楕円形。 (断面形) 碗状。 (規模) 長径112cm×84cm以上×深さ39cm。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔遺物出土状況〕 縄文時代土器片が少量出土したが、図示には至らなかった。

〔時期〕 縄文時代

3. 炉穴

第57号炉穴 (57FP) (第20図)

〔位置〕 第80地点調査区北側に位置する。

〔構造〕 (平面形) 北東―南西方向を主軸とする楕円形。 (断面形) 皿状を呈する。 (規模) 長径114cm×短径82cm×深さ26cm。 (燃焼部) 底部北側に燃焼部をもつ。

〔覆土〕 淡暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

〔遺物出土状況〕 条痕文系土器片が少量出土したが、図示には至らなかった。

〔時期〕 縄文時代早期

第58号炉穴 (58FP) (第20図)

〔位置〕 第80地点調査区北端に位置する。

〔構造〕 (平面形) 不整形円形。 (断面形) 碗状を呈する。 (規模) 長径114cm×短径82cm×深さ26cm。 (燃焼部) 調査区内で明瞭な燃焼部は確認できない。

〔覆土〕 褐色土を基調とし、4層に分層される。焼土粒を多く含んでいる。

〔遺物出土状況〕 条痕文系土器片が少量出土した。

〔時期〕 縄文時代早期

No.	出土遺構	器種	法量 (単位はcm、*は現存、#は復元)			口縁遺存 (完形を1とする)	色調	備考等
			口径	底径	器高			
第20図 1	58FP	深鉢	—	—	*7.5	0	褐色	外面無文、内面条痕文 胎土に繊維を少量含む 早期末
第20図 2	58FP	深鉢	—	—	*5.9	0	暗褐色	内外面ともに条痕文 胎土に繊維を含む 早期末

第10表 第58号炉穴出土遺物観察表 (58FP)

第3節 平安時代の遺構と遺物

1. 住居跡

第53号住居跡(53H) (第21・22図)

〔位置〕 第78地点調査区北端、第80地点南端にまたがって位置し、東側の一部は調査範囲外。

〔構造〕 (平面形) 確認できる範囲では方形。(主軸方位) N-14°-Eか。(規模) 8.0m×7.0m以上。(壁高) 壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面から20~27cmを測る。

(壁溝) 調査区内で確認できる範囲では、住居跡北側の一部を除く壁際を巡る。開口幅18~24cm×底部幅6~12cm×深さ4~14cmの溝が検出された。(床) 中央部に硬化範囲が認められる。(柱穴) 床面南寄りに84cm×48cm×深さ16cmを測る楕円形のピットが1基、南西隅で58cm×65cm×深さ51cmを測る円形のピット{F-F'}が1基確認されたが、柱穴としての機能があったものかは不明瞭である。

(炉・カマド) 床面北寄りで、南北方向に長い不整形の焼土を伴う浅い掘り込みが認められた。規模は126cm×57cm×深さ5~10cmを測る。地床炉あるいはカマドの痕跡であろう。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、6層に分層される。

〔遺物出土状況〕 覆土中〜床面上から須恵器・土師器・布目瓦・石製品・鉄製品(刀子)等が出土した。また南西隅で検出されたピット覆土中から、完形に近い内面黒色土器が出土した。

〔時期〕 9世紀末〜10世紀

第53号住居跡出土遺物(53H)

(第22・23図・第11表)

第22図1はF-F'ピット内からはほぼ完形で出土した内黒土器の碗。内面はヘラミガキによりよく調整されている。

第23図5は鉄製の刀子。比較的良好な状態で出土した。基部には木質がわずかに残存している。

第4節 中世以降の遺構と遺物

1. 溝跡

第47号溝跡(47M) (第24図)

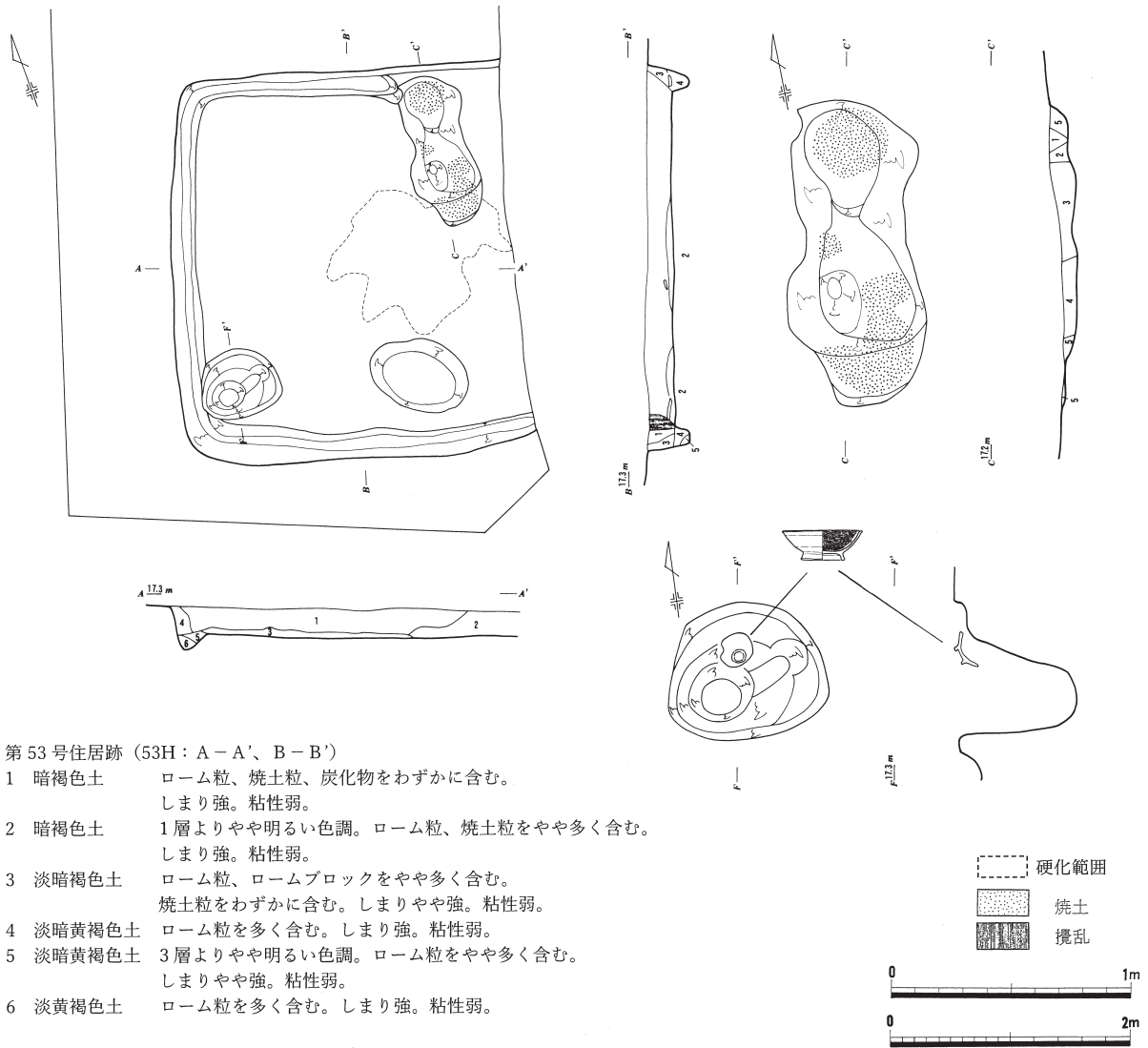
〔位置〕 第80地点調査区南北西端に位置する北東-南西方向の溝。西側は調査区外へ延びている。75JD・76JDと重複し、切っている。

〔構造〕 (開口部幅) 約1.4~1.9m (底部幅) 約0.6m (深さ) 約0.6m (断面形) 逆台形。上部では立ち上がりが緩くなり、開口部が広がる。

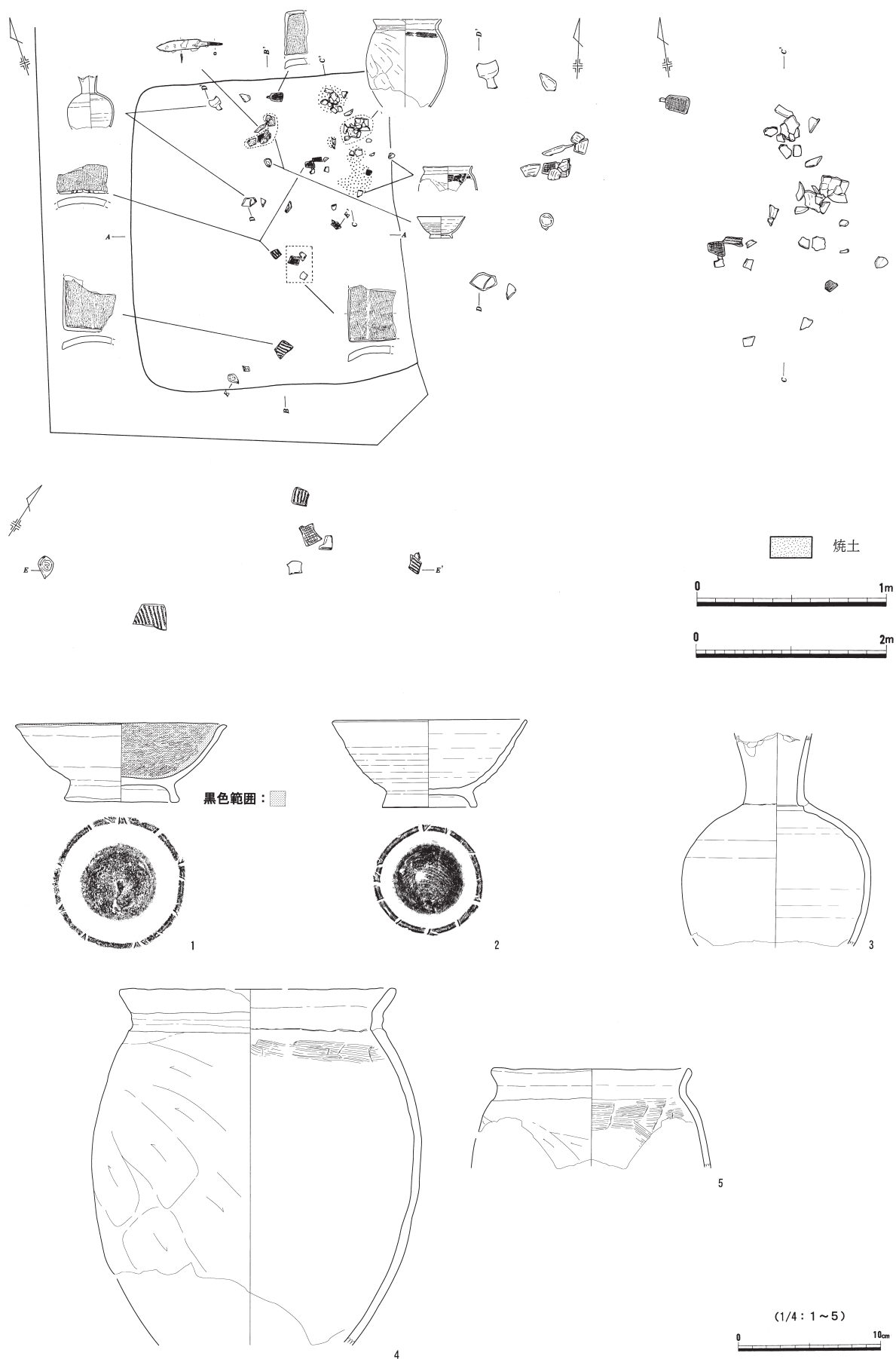
〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、4層に分層される。

〔遺物出土状況〕 土器片などがわずかに出土しているが、図示には至らなかった。

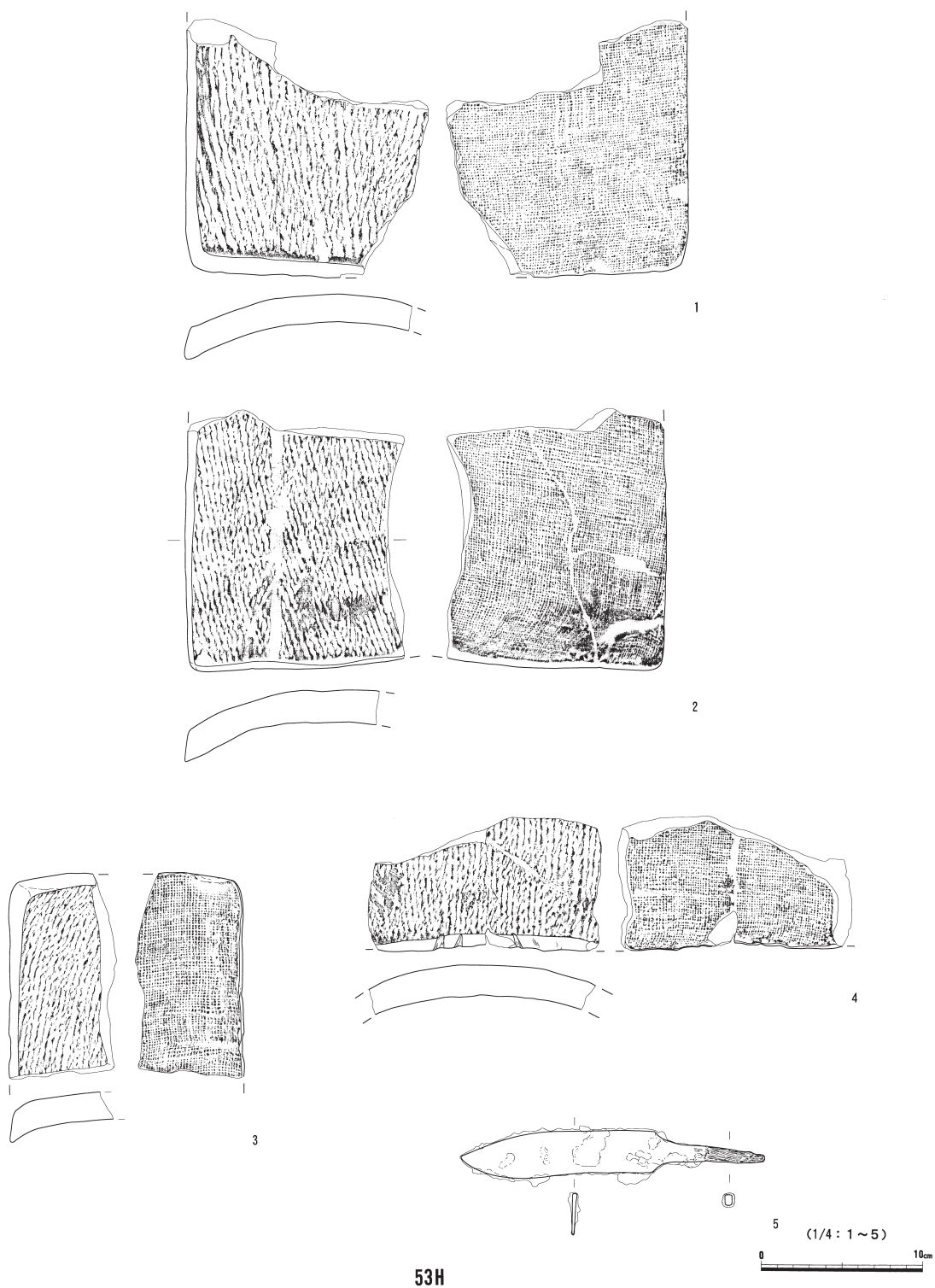
〔時期〕 中世以降か



第 21 図 第 53 号住居跡 (53H : 1/30・1/60)



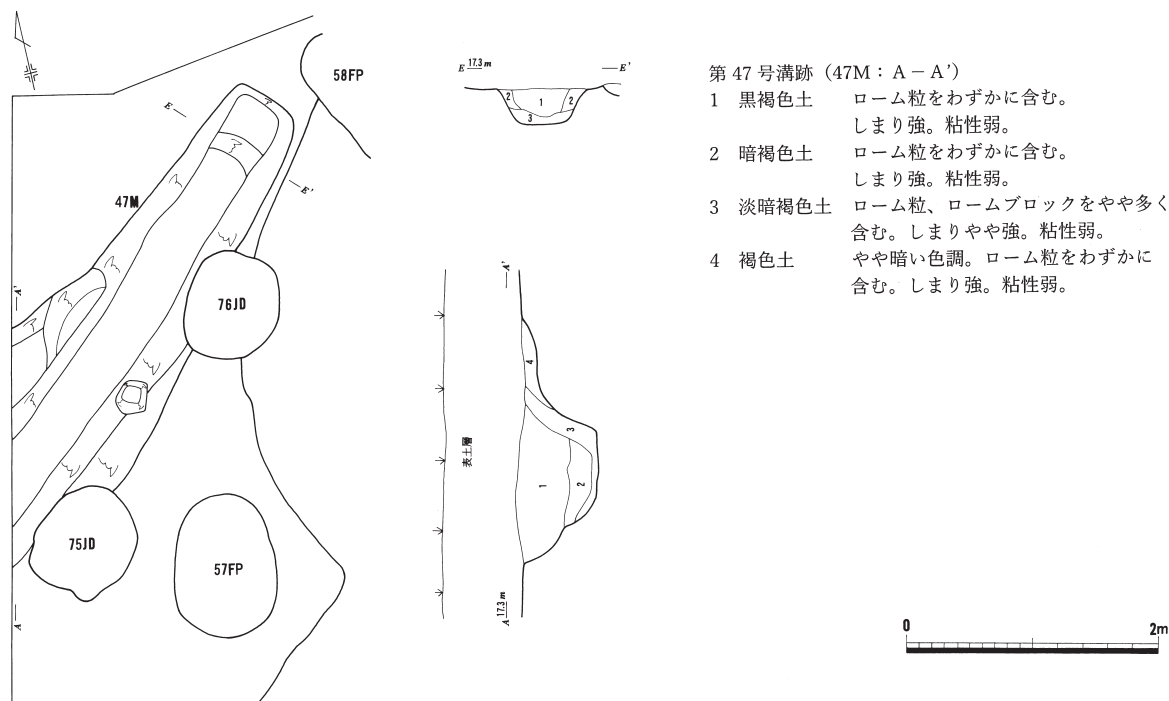
第22図 第53号住居跡遺物出土状況・出土遺物1 (53H : 1/30・1/60・1/4)



第23図 第53号住居跡出土遺物2 (53H : 1/4)

土 器								
No.	出土 遺構	種別・ 器種	法量 (単位はcm、*は現存、#は復元)			口縁遺存 (完形を 1とする)	色調	備考等
			口径	底径	器高			
第22図 1	53H (南西隅 ピット)	土師器 碗	14.7	8.0	5.5	9/10	にぶい 橙色	内黒土器 内面:黒化、ヘラミガキ 底部:糸切り後にナデ消しか ロクロ成形 胎土:細粒砂含む
第22図 2	53H	須恵器 碗	13.7	6.1	6.1	ほぼ1	暗灰色	底部回転糸切り、ロクロ成形 胎土:白色粒子・石英小礫含む
第22図 3	53H	須恵器 壺	-	-	*14.9	0	灰色	口縁部は意図的な打ち欠き ロクロ成形 胎土:白色粒子・石英小礫含む
第22図 4	53H	土師器 甕	*18.0	-	*24.9	1/4	明褐色	外面:口縁部～頸部ヘラナデ、胴部ヘラケズリ 内面:輪積み痕あり。口縁部～頸部ヘラナデ、 胴上部刷毛目 胎土:細粒砂含む
第22図 5	53H	土師器 甕	*13.6	-	*7.0	1/3	明褐色	外面:口縁部～頸部ヘラナデ、胴部ヘラケズリ 内面:口縁部～頸部ヘラナデ、胴上部刷毛目 胎土:細粒砂含む
布目瓦・鉄製品								
No.	出土 遺構	器種	法量			備考等		
			長さ	幅	厚さ			
第23図1	53H	平瓦	*16.0	*14.9	1.8	色調:明灰褐色、凸面:縄目タタキ、凹面:布目		
第23図2	53H	平瓦	*16.1	*13.5	1.9	色調:明灰褐色、凸面:縄目タタキ、凹面:布目		
第23図3	53H	平瓦	*12.8	*6.5	1.8	色調:明灰褐色、凸面:縄目タタキ、凹面:布目		
第23図4	53H	平瓦	*8.3	*14.4	1.9	色調:明灰褐色、凸面:縄目タタキ、凹面:布目		
第23図5	53H	刀子	18.8	3.0	0.8	鉄製。基部に木質残存		

第11表 第53号住居跡出土遺物観察表 (53H)



第24図 第47号溝跡 (47M: 1/60)

第5章 谷津遺跡第51地点

第1節 遺跡の概要

1. 遺跡の立地と調査地点の概要

谷津遺跡は市域のほぼ中央に位置する。遺跡南側を大きく蛇行して流れる権平川に開析された小支谷により、東南西の三方が画された舌状台地上に立地する。

谷津遺跡は、これまでの調査で旧石器時代の石器群、縄文時代早期～中期の住居跡、奈良・平安時代の住居跡等が検出された複合遺跡である。

第51地点は遺跡の南部に位置し、周辺では主に縄文時代前期～中期の住居跡・早期の炉穴、奈良時代～平安時代の住居跡が検出されている。

2. 発掘調査の経過

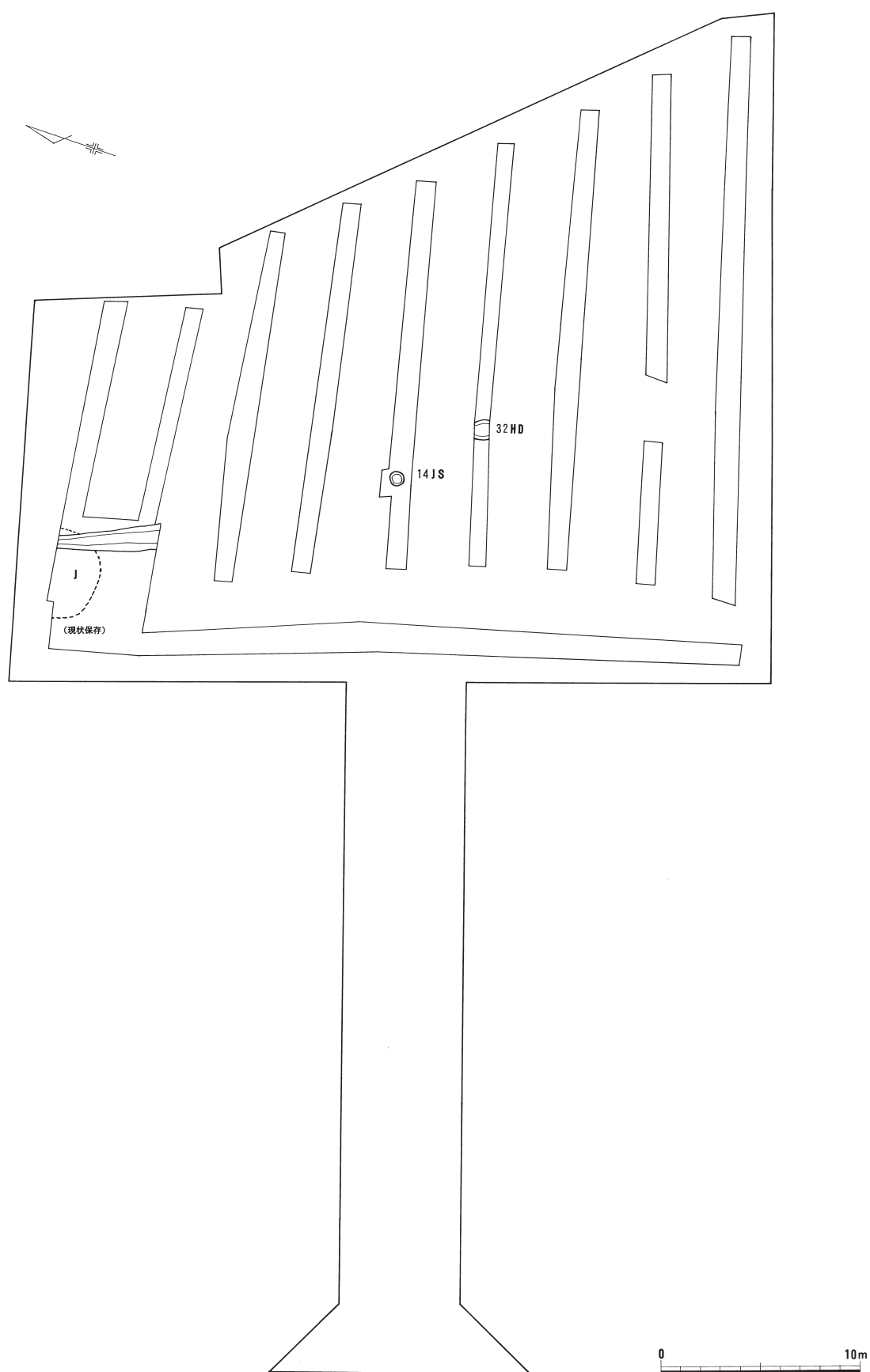
第51地点は、宅地造成に伴う試掘調査を、令和3年10月4日～10月6日に実施した。検出された遺構のうち、工事の掘削等の影響を受け、十分な保護層を確保できない見込みの遺構については、記録保存を目的とした発掘調査を実施し、それ以外の遺構については現状保存の措置をとることとなった。

調査は、令和3年10月8日に実施した。

調査で検出した遺構は縄文時代の集石1基(14JS)、近代の土坑1基(32HD)である。



第25図 谷津遺跡第51地点 (1/5000)



第26図 谷津遺跡第51地点遺構配置図 (1/300)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

1. 集石

第14号集石（14J S）（第27図）

〔位置〕 調査区中央に位置する。

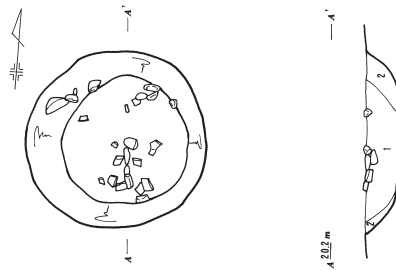
〔構造〕 平面円形、断面碗状の掘り込みを伴い、掘り込みの覆土上層を中心に礫が含まれている。掘り込みの規模は72cm×70cm×深さ13cmを測る。

〔礫〕 検出された礫は118個・5,709gを測り、うち被熱痕跡の無い礫が100個・5,141g、被熱痕跡のある礫は18個・568gであった。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔遺物出土状況〕 礫を除く遺物出土は皆無であった。

〔時期〕 縄文時代



第27図 第14号集石（14J S：1/30）

第3節 近代の遺構と遺物

1. 土坑

第32号土坑（32H D）（第28図）

〔位置〕 調査区中央に位置する。

〔構造〕 （平面形）確認できる範囲では楕円形。

（断面形）皿状。（規模）70cm以上×91cm×深さ10～15cmを測る。

〔遺物出土状況〕 近代の陶磁器が多く出土した。

〔時期〕 近代

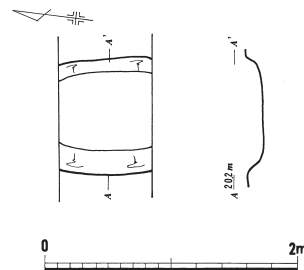
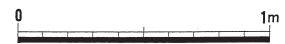
第32号土坑出土遺物（32H D）

（第28～33図、第12・13表）

50点を図示した。器種は小坏、碗、皿、徳利、急須など。

第14号集石（14J S：A-A'）

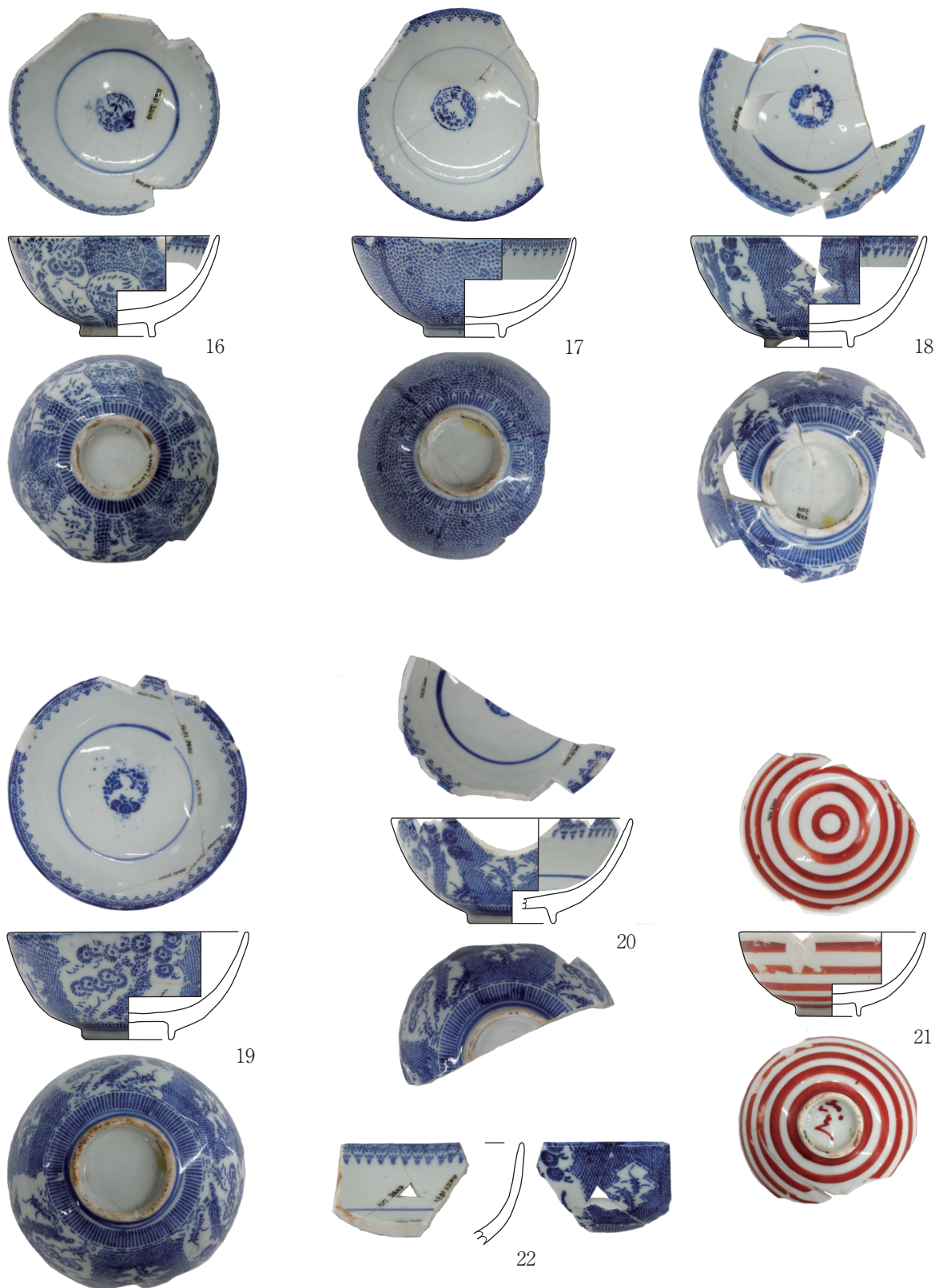
- | | |
|--------|----------------------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームブロック・炭化粒を少量含む。
しまり・粘性やや弱い。 |
| 2 褐色土 | ローム粒を少量含む。
しまり・粘性弱い。 |



第28図 第32号土坑（32H D：1/60）

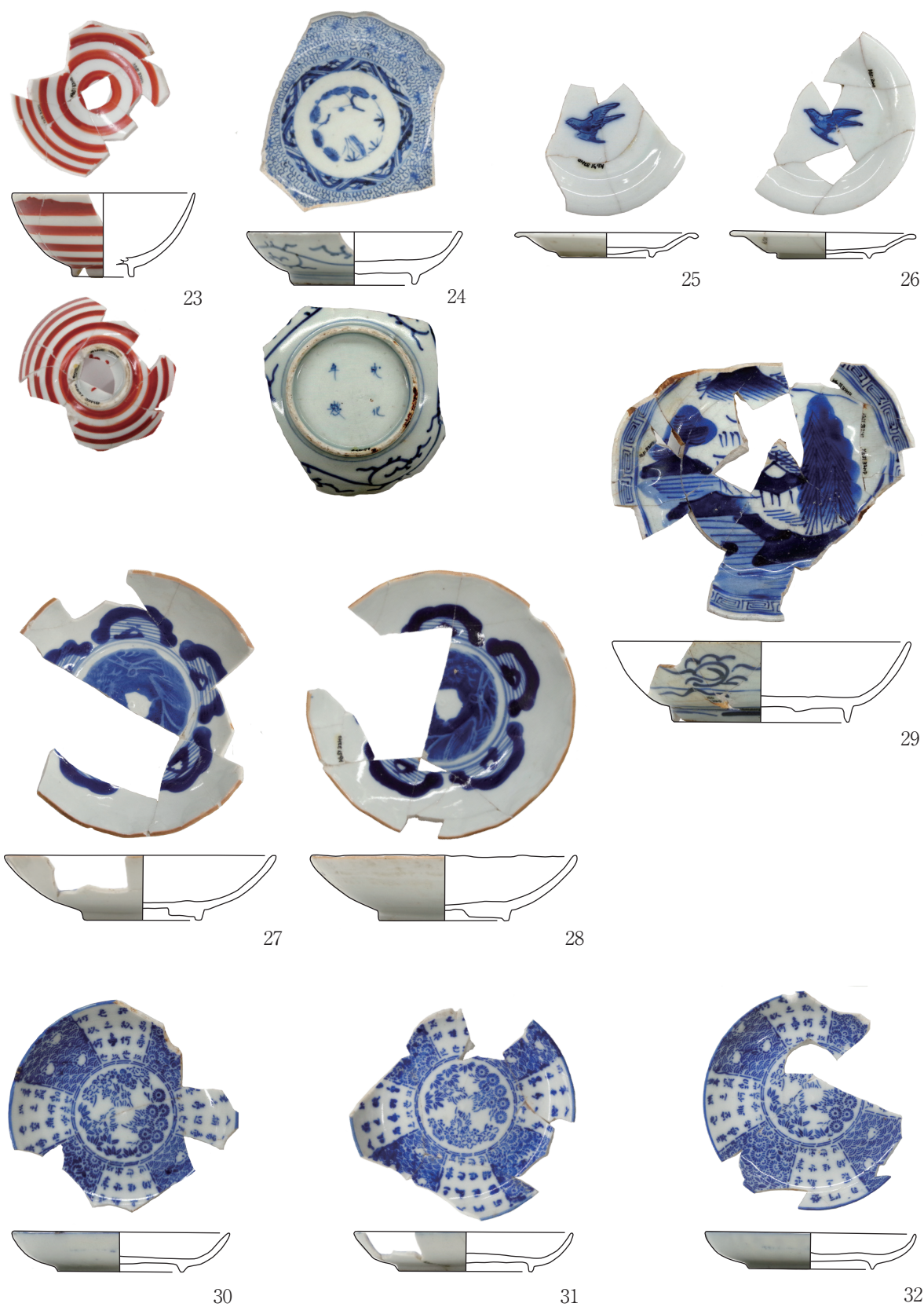


第29図 第32号土坑出土遺物 1 (32HD : 1/3)



0 (1/3 : 16~22) 10cm

第30図 第32号土坑出土遺物2 (32HD : 1/3)

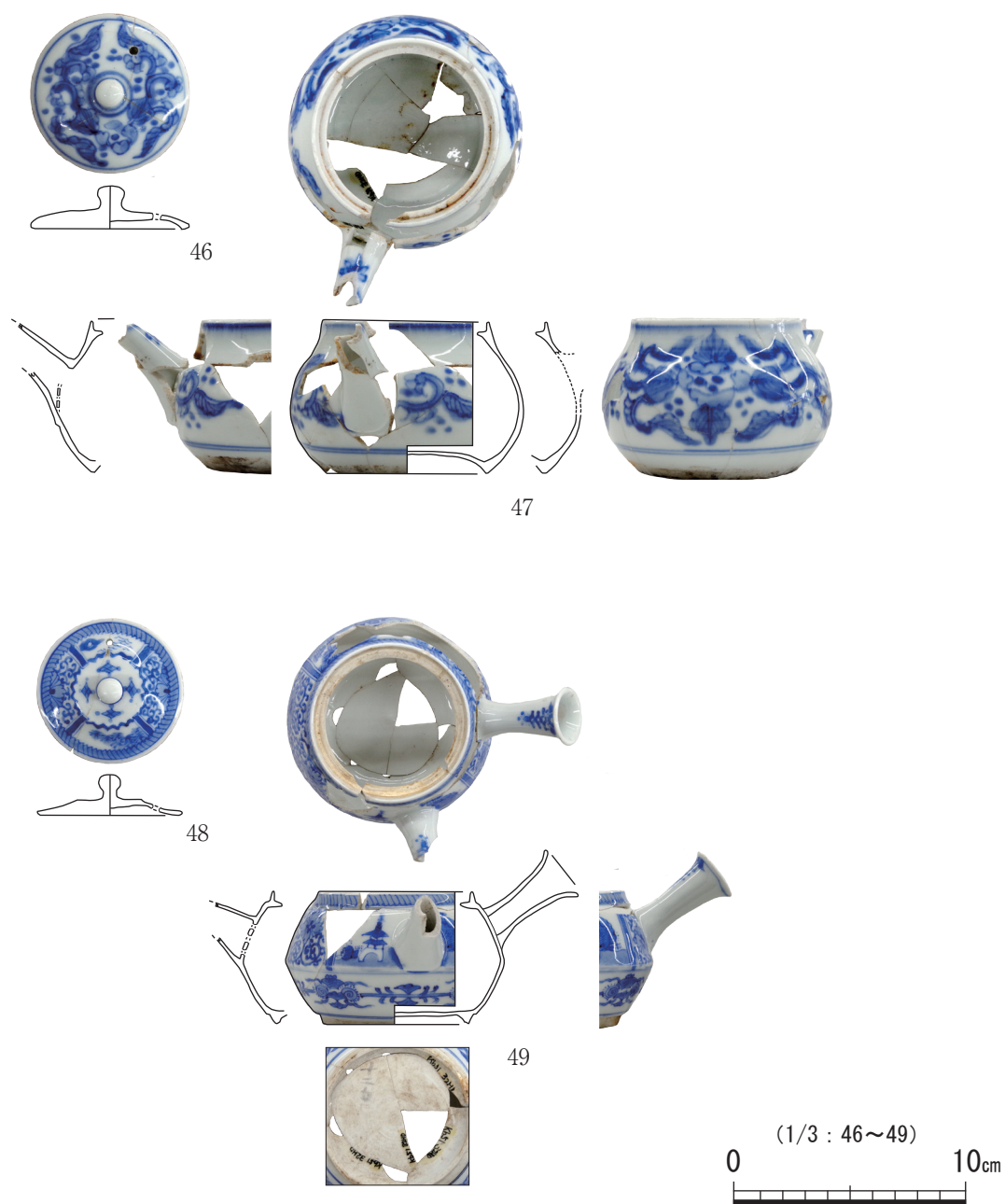


0 (1/3 : 23~32) 10cm

第31図 第32号土坑出土遺物3 (32HD : 1/3)



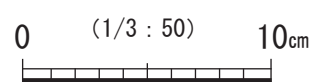
第32図 第32号土坑出土遺物4 (32HD : 1/3)



第33図 第32号土坑出土遺物 5 (32HD : 1/3)



50



第34図 第32号土坑出土遺物6 (32HD : 1/3)

No.	器種	法量 (単位はcm、#は現存)			色調	釉薬	備 考
		口径	底径	器高			
第29図1	磁器 小坏	7.6	3.1	3.7	白色	青磁釉	クロム青磁 ロクロ型打成形 瀬戸・美濃産 1880年代～
第29図2	磁器 小坏	7.9	3.1	3.5	白色	青磁釉	クロム青磁 ロクロ型打成形 瀬戸・美濃産 1880年代～
第29図3	磁器 小坏	7.8	3.1	3.4	白色	青磁釉	クロム青磁 ロクロ型打成形 瀬戸・美濃産 1880年代～
第29図4	磁器 小坏	7.5	3.2	3.9	白色	青磁釉	クロム青磁 ロクロ型打成形 瀬戸・美濃産 1880年代～
第29図5	磁器 小坏	6.3	2.7	2.9	白色	透明釉	ロクロ型打成形 瀬戸・美濃産 1850～1860年代
第29図6	磁器 小坏	6.9	2.8	4.3	白色	透明釉	外面蝶・菊文
第29図7	磁器 小坏	7.8	3.1	3.4	白色	透明釉	外面雲文 等
第29図8	磁器 小坏	6.4	3.0	4.9	白色	透明釉	松文 等
第29図9	磁器 小坏	7.6	2.6	3.3	乳白色	透明釉	外内面雪芝・捻花文 瀬戸・美濃産 1870年代～
第29図10	磁器 湯呑碗	7.0	3.1	5.1	白色	透明釉	口鏤 見込み陰刻壽字文 瀬戸・美濃産 1850年代～
第29図11	磁器 湯呑碗	5.3	3.2	5.8	白色	透明釉	菊・ススキ・草文 等
第29図12	磁器 小坏	—	2.7	#3.8	白色	透明釉	草文
第29図13	磁器 碗	11.0	3.6	5.7	白色	透明釉	格子文か 等
第29図14	磁器 碗	10.6	3.8	5.2	白色	透明釉	外面草花文 口縁部内面連鎖文 見込み帆掛け舟文
第29図15	磁器 碗	11.2	3.8	5.0	白色	透明釉	外面放射文(青・緑) 等
第30図16	磁器 碗	10.6	3.8	5.1	白色	透明釉	型紙摺り 1880年代～ 外面花文・微塵唐草文・青海波文 内面口縁部環珞文 見込み圏線・松竹梅丸文
第30図17	磁器 碗	11.1	4.1	5.0	白色	透明釉	型紙摺り 1880年代～ 外面微塵唐草文 内面口縁部環珞文 見込み圏線・松竹梅丸文
第30図18	磁器 碗	11.8	4.6	5.6	白色	透明釉	型紙摺り 1880年代～ 外面鹿の子文・松文・花文 内面口縁部環珞文 見込み圏線・松竹梅丸文
第30図19	磁器 碗	12.1	4.6	5.4	白色	透明釉	型紙摺り 1880年代～ 外面鹿の子文・松文・花文 内面口縁部環珞文 見込み圏線・松竹梅丸文
第30図20	磁器 碗	12.0	4.4	5.3	白色	透明釉	型紙摺り 1880年代～ 外面鹿の子文・松文・花文 内面口縁部環珞文 見込み圏線・松竹梅丸文
第30図21	磁器 碗	9.4	3.3	4.2	白色	透明釉	上絵付(赤)
第30図22	磁器 碗	—	—	#5.1	白色	透明釉	外面鹿の子文・松文 内面口縁部環珞文

第12表 第32号土坑出土遺物観察表(32HD) 1

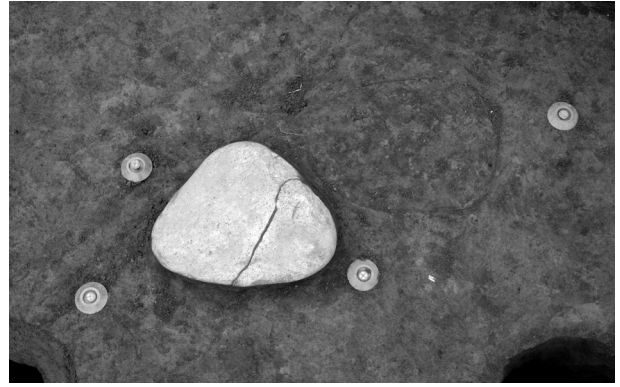
No.	器種	法量 (単位はcm、#は現存)			色調	釉薬	備 考
		口径	底径	器高			
第31図23	磁器 碗	9.4	3.2	4.3	白色	透明釉	上絵付(赤)
第31図24	磁器 皿	11.0	6.2	2.7	白色	透明釉	平面輪花形 外面唐草文 内面微塵唐草文 見込み帯文・松竹梅丸文 肥前産 1800～1860年代
第31図25	磁器 小皿	9.4	4.6	1.3	白色	透明釉	内面鳥文か
第31図26	磁器 小皿	9.5	4.7	1.4	白色	透明釉	内面鳥文か
第31図27	磁器 皿	13.9	6.0	3.3	白色	透明釉	平面輪花形 口鏝 内面型押陽刻文
第31図28	磁器 皿	13.7	6.6	3.3	白色	透明釉	平面輪花形 口鏝 内面型押陽刻文
第31図29	磁器 皿	15.2	9.0	4.1	白色	透明釉	平面輪花形 内面口縁部雷文 等
第31図30	磁器 皿	11.1	6.4	2.1	白色	透明釉	内面青海波文・花文・漢詩文 松竹梅丸文
第31図31	磁器 皿	11.2	6.8	2.0	白色	透明釉	内面青海波文・花文・漢詩文 松竹梅丸文
第31図32	磁器 皿	10.8	4.4	1.9	白色	透明釉	内面青海波文・花文・漢詩文 松竹梅丸文
第32図33	磁器 爛徳利	3.1	6.0	18.3	白色	透明釉	外面草文
第32図34	磁器 爛徳利	3.3	6.5	19.0	白色	透明釉	型紙摺り 外面雲鶴文 外面口縁部瓔珞分
第32図35	磁器 爛徳利	3.0	-	#9.5	白色	透明釉	外面菊文 等 No.36と同一個体か
第32図36	磁器 爛徳利	-	5.1	#8.2	白色	透明釉	外面菊文 等 No.35と同一個体か
第32図37	磁器 爛徳利	-	5.5	#15.2	白色	透明釉	外面渦文か 等
第32図38	磁器 爛徳利	-	5.6	#11.8	白色	透明釉	外面渦文か 等
第32図39	磁器 爛徳利	-	-	#6.9	白色	透明釉	草花文
第32図40	陶器 徳利	3.6	-	#25.6	黄褐色	灰釉	-
第32図41	陶器 ひょうそく	8.6	7.0	5.4	黄褐色	灰釉	底部無釉
第32図42	陶器 鍋蓋	15.9	-	3.2	黄褐色	灰釉	外面白泥刷毛目
第32図43	陶器 灯明皿	8.2	3.7	1.7	黄褐色	灰釉	底部回転糸切り
第32図44	陶器 土瓶蓋	7.7	-	1.3	黄褐色	灰釉	外面文様あり
第32図45	磁器 蓋	9.2	-	2.5	白色	透明釉	内面口縁部連鎖文 見込み圏線 外面文様あり
第33図46	磁器 急須蓋	6.8	-	1.8	白色	透明釉	外面文様あり No.47の蓋
第33図47	磁器 急須	7.0	7.0	6.6	白色	透明釉	外面文様あり 胴部球形
第33図48	磁器 急須蓋	6.2	-	1.7	白色	透明釉	外面文様あり No.49の蓋
第33図49	磁器 急須	6.6	6.4	5.7	白色	透明釉	外面文様あり 把手及び注口外面瓔珞文 胴部最大径に稜線
第34図50	磁器 植木鉢	30.8	9.4	24.4	白色	青磁釉	上絵付け(草・花)

第13表 第32号土坑出土遺物観察表 (32HD) 2

写真図版 1 打越遺跡第 48-3 地点



〔1〕第 239 号住居跡（239 J）完掘状況



〔2〕第 239 号住居跡（239 J）遺物出土状況 1



〔3〕第 239 号住居跡（239 J）遺物出土状況 2



〔4〕第 423 号土坑（423 J D）完掘状況



〔5〕第 424 号土坑（424 J D）完掘状況



〔6〕第 239 号住居跡（239 J）出土遺物 1
（第 6 図 1～7）



〔7〕第 239 号住居跡（239 J）出土遺物 2
（第 6 図 8～12）



〔8〕打越遺跡第 48-3 地点遺構外出土遺物
（第 7 図 1・2）

写真図版2 御庵遺跡第50地点1



〔1〕御庵遺跡第50地点調査状況1



〔2〕御庵遺跡第50地点調査状況2



〔3〕第23号住居跡（23 J）遺物出土状況1



〔4〕第23号住居跡（23 J）遺物出土状況2
（L-L'）



〔5〕第23号住居跡（23 J）遺物出土状況3



〔6〕第23号住居跡（23 J）遺物出土状況4



〔7〕第23号住居跡（23 J）遺物出土状況5



〔8〕第23号住居跡（23 J）遺物出土状況6



〔1〕第 23 号住居跡 (23 J) 完掘状況



〔2〕第 23 号住居跡 (23 J)
炉体土器検出状況



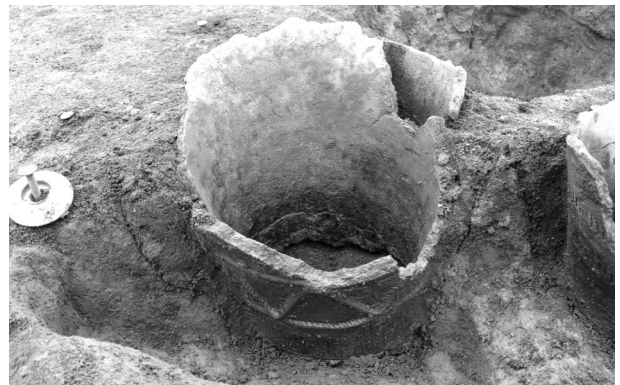
〔3〕第 23 号住居跡 (23 J) 炉跡土層断面



〔4〕第 23 号住居跡 (23 J) 炉跡完掘状況



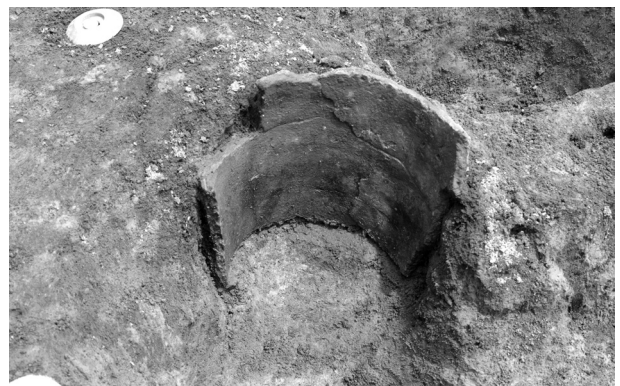
〔5〕第 23 号住居跡 (23 J) 炉体土器 1・2



〔6〕第 23 号住居跡 (23 J) 炉体土器 1



〔7〕第 23 号住居跡 (23 J) 炉体土器 2



〔8〕第 23 号住居跡 (23 J) 炉体土器 3

写真図版 4 御庵遺跡第 50 地点 3



〔1〕 第 23 号住居跡（23 J）出土遺物 1
（第 13 図 1）



〔1〕 第 23 号住居跡（23 J）出土遺物 2
（第 13 図 2・3）



〔3〕 第 23 号住居跡（23 J）出土遺物 3
（第 14 図 1～9）



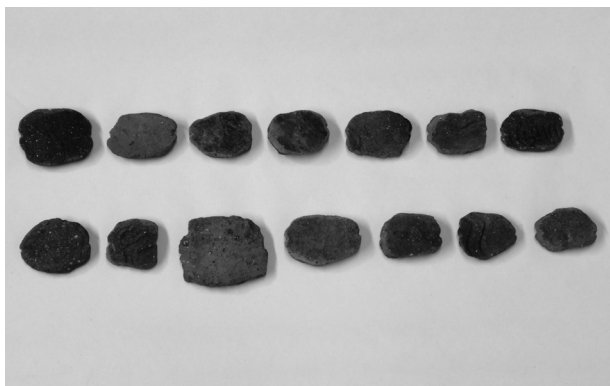
〔4〕 第 23 号住居跡（23 J）出土遺物 4
（第 14 図 10）



〔5〕 第 23 号住居跡（23 J）出土遺物 5
（第 14 図 11・12）



〔6〕 第 23 号住居跡（23 J）出土遺物 6
（第 14 図 13～15）



〔7〕 第 23 号住居跡（23 J）出土遺物 7
（第 12 図 1～14）



〔8〕 御庵遺跡第 50 地点遺構外出土遺物
（第 14 図 16・17）

写真図版 5 氷川前遺跡第 78・80 地点 1



〔1〕氷川前遺跡第 78 地点試掘調査状況



〔2〕氷川前遺跡第 78・80 地点調査状況



〔3〕第 15 号住居跡（15 J）遺物出土状況 1



〔4〕第 15 号住居跡（15 J）遺物出土状況 2



〔5〕第 15 号住居跡（15 J）完掘状況



〔6〕第 75 号土坑（75 J D）完掘状況

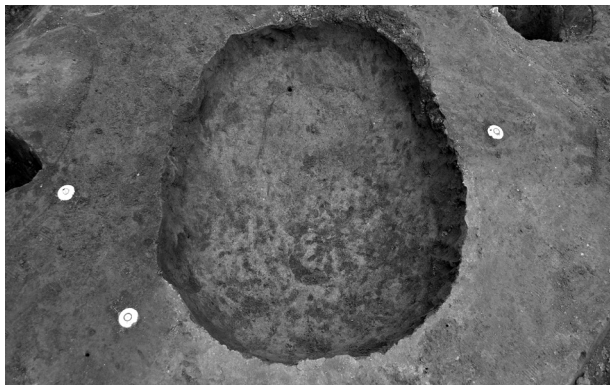


〔7〕第 76 号土坑（76 J D）完掘状況



〔8〕第 77 号土坑（77 J D）完掘状況

写真図版6 氷川前遺跡第78・80地点2



〔1〕第57号炉穴（57 F P）完掘状況



〔2〕第58号炉穴（58 F P）完掘状況



〔3〕第53号住居跡（53 H）遺物出土状況1



〔4〕第53号住居跡（53 H）遺物出土状況2
（F-F'）



〔5〕第53号住居跡（53 H）遺物出土状況3
（F-F'）



〔6〕第53号住居跡（53 H）遺物出土状況4



〔7〕第53号住居跡（53 H）遺物出土状況5



〔8〕第53号住居跡（53 H）完掘状況

写真図版 7 氷川前遺跡第 78・80 地点 3



〔1〕第 47 号溝跡完掘状況 (47 M)



〔2〕第 15 号住居跡 (15 J) 出土遺物 1
(第 19 図 1 ~ 7)



〔3〕第 15 号住居跡 (15 J) 出土遺物 2
(第 19 図 8 ~ 13)



〔4〕第 58 号炉穴 (58 F P) 出土遺物
(第 20 図 1・2)



〔5〕氷川前遺跡第 78・80 地点遺構外出土
縄文時代遺物 (第 19 図 14 ~ 19)



〔6〕第 53 号住居跡 (53 H) 出土遺物 1
(第 22 図 1 ~ 3)



〔7〕第 53 号住居跡 (53 H) 出土遺物 2
(第 22 図 4・5)



〔8〕第 53 号住居跡 (53 H) 出土遺物 3
(第 23 図 5)

写真図版 8 氷川前遺跡第 78・80 地点 4・谷津遺跡第 51 地点



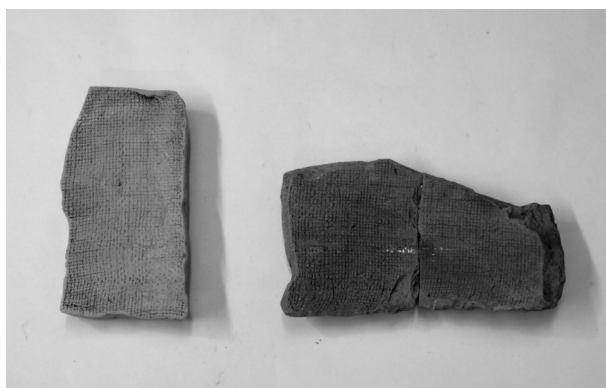
〔1〕第 53 号住居跡 (53 H) 出土遺物 4 (表)
(第 23 図 1・2 凸面)



〔2〕第 53 号住居跡 (53 H) 出土遺物 4 (裏)
(第 23 図 1・2 凹面)



〔3〕第 53 号住居跡 (53 H) 出土遺物 5 (表)
(第 23 図 3・4 凸面)



〔4〕第 53 号住居跡 (53 H) 出土遺物 5 (裏)
(第 23 図 5・6 凹面)



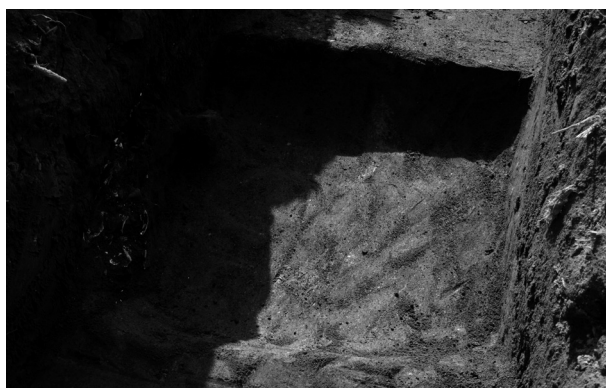
〔5〕谷津遺跡第 51 地点調査前状況



〔6〕第 14 号集石 (14 J S) 土層断面



〔7〕第 14 号集石 (14 J S) 完掘状況



〔8〕第 32 号土坑 (32 J D) 完掘状況

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはつくつちようさ							
書名	市内遺跡発掘調査			巻次	X VII			
副書名								
シリーズ名	富士見市文化財報告			巻次	第76集			
編著者名	大野 朝日							
編集機関	富士見市教育委員会							
所在地	埼玉県富士見市大字鶴馬1873-1 〒354-0021 TEL 049-251-2711 fax 049-255-9635							
発行年月日	2024年3月31日							
所収遺跡	所在地		コード		北緯/東経 (日本測地系による)	調査期間 (上段; 試掘、 下段; 本調査)	面積	調査原因
			市町村	遺跡番号				
打越遺跡 第48-3地点	東みずほ台四丁目 30-62、30-63		112356	24-039	35° 50′ 42″ 139° 32′ 59″	— 2023年 6月30日～7月6日	135㎡	個人住宅
御庵遺跡 第50地点	鶴馬二丁目3064-1		112356	24-031	35° 50′ 40″ 139° 32′ 43″	2023年 4月17日～4月19日 2023年 5月12日～5月24日	2149.96㎡	宅地造成
氷川前遺跡 第78地点	大字水子字西北側 1426-1		112356	24-041	35° 50′ 51″ 139° 33′ 36″	2018年 6月5日 2018年 7月9日～7月26日	263㎡	分譲住宅 道路
氷川前遺跡 第80地点	大字水子字西北側 1444-2、他11筆		112356	24-041	35° 50′ 52″ 139° 33′ 36″	2018年 6月22日 2018年 7月9日～7月26日	478.34㎡	道路
谷津遺跡 第51地点	鶴馬一丁目 2218-4		112356	24-030	35° 50′ 56″ 139° 32′ 32″	2021年 10月4日～10月6日 2021年 10月8日	1180.18㎡	宅地造成
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
打越遺跡 第48-3地点	集落跡	縄文時代	住居跡 1軒 土坑 2基		土器・石器			
御庵遺跡 第50地点	集落跡	縄文時代	住居跡 1軒		土器・土製品・ 石器			
氷川前遺跡 第78地点	集落跡	平安時代	住居跡 1軒		須恵器・土師器・ 布目瓦・鉄製品	一部の遺構は現状保存の措置をとった。		
氷川前遺跡 第80地点	集落跡	縄文時代	住居跡 1軒 土坑 3基 炉穴 2基		土器・石器			
		平安時代	住居跡 1軒		須恵器・土師器・ 布目瓦・鉄製品			
		中世以降	溝跡 1条					
谷津遺跡 第51地点	集落跡	縄文時代	集石 1基			一部の遺構は現状保存の措置をとった。		
	集落跡	近代	土坑 1基		陶磁器			

要 約

【打越遺跡第 48-3 地点】

遺跡西端付近に位置し、富士見江川の段丘に面する平坦地。周辺では縄文時代前期前半の集落跡が確認されており、隣接する調査地点では関山Ⅰ式期の貝層を伴う遺構が確認されている。本地点では、貝層を伴わない関山式期の住居跡 1 軒等の遺構が検出された。

【御庵遺跡第 50 地点】

遺跡南端付近に位置し、東側で富士見江川の段丘に面する緩い傾斜地。周辺では縄文時代早期の炉穴や縄文時代前期の住居跡が確認されている。本地点では、縄文時代中期中葉の住居跡 1 軒が検出された。本遺跡では検出例の少ない時期の住居跡であり、炉体土器として勝坂式と阿玉台系の両方が確認された。土器片錘のまとまった出土がみられた。

【氷川前遺跡第 78 地点・第 80 地点】

遺跡北部の平坦地に位置する。周辺では弥生時代～古墳時代の住居跡数基が検出されているが、遺構分布は比較的まばらな範囲である。今回の調査では、縄文時代後期前半の住居跡 1 軒、平安時代の住居跡 1 軒等の遺構が確認された。縄文時代後期前半の住居跡は柄鏡形を呈するもので、市域では例の少ない時期の住居跡として特筆される。一部の遺構は現状保存の措置をとっている。

【谷津遺跡第 51 地点】

遺跡南部の平坦地に位置する。周辺では主に縄文時代の住居跡・炉穴、奈良～平安時代の住居跡が検出されている。今回の調査では、縄文時代の集石 1 基と近代の土坑 1 基が確認された。近代の土坑からは小坏、碗、皿などの陶磁器片がまとまって出土している。一部の遺構は現状保存の措置をとっている。

富士見市文化財報告 第 76 集

市内遺跡発掘調査 XⅦ

発行 令和 6 年 3 月 31 日

編集発行 富士見市教育委員会

〒354-0021 埼玉県富士見市大字鶴馬 1873-1

印刷 株式会社 C I A

〒960-0719 福島県伊達市梁川町やながわ工業
団地 90-1